右之通向後可被得相心候

七　月

延享二丑年二月御渡被成候御書付

拷問もの有之刻立合之儀去々亥七月相達候向後於牢屋吟味もの有之節拷問ニ不限口問等之節も立合之もの差越吟味之樣子申口得と承屆候樣ニ可被致候

丑二　月

類　例

寶暦九卯年二月廿六日

牢問之節御徒目付立合之事

堀田相摸守殿月番三奉行江御渡

一牢屋敷ニ而致牢問節向後御徒目付立合候樣可被致候

右之通御目付江申渡候間可被得其意候

二　月

引書○評定所格例

享和元酉年十一月五日

白狀不致囚人不及拷問御仕置申付間敷旨之御書取

采女正殿御渡

根岸肥前守御仕置相伺候無宿小助儀盗致し候證據分明候處申陳不及白狀候間不及拷問御仕置可申付哉と申聞候此もの儀は盗之證據顯然之事其上入墨以後之盗ニも候得ハ伺之通死罪申付候得共一躰吟味筋之儀は大切之事ニ而拷問之品御定書ニ被載候趣も有之候得は假令罪狀明白候共當人不致白狀候を拷問にも不致御仕置申付候段は容易ならさる事ニ候條以來此例を用ひ候儀は不可然候各此趣を被相心得後來之流弊ニ不相成樣ニ可被致候事

引書○御仕置伺御下知留

牢問致方之事

牢問致方は囚人江再應利害申聞相陳候得者痛メ可申旨申威し候上後ロ手ニ縛り申候其上ニも相陳候得者箒尻ニ而兩肩を敲申候

但縛り方ハ後ロ手に縛り左右之手首を兩肩之下迄〆上候得者兩之肩江肉集候間其上を敲申候痛候

而も骨江當り不申候ニ付骨之痛に相成不申候

一其上にも相陳候得者薪六七本並後ロ手ニ縛り候儘ニ兩膝をまくらせ右薪之上江居らせ縛り縄之餘に

而後ロ之柱江縛り付膝江石を載申候

右石二三枚膝江載置其上にも相陳候得者段々石を相増し七八枚乃至十枚程も積申候

但只薪之上江居らせ膝江石を載候而ハ石ニ而胸を打候ニ付後ロ之柱江縛付少し後ロへ反り候程ニ

仕石を載申候

一一應は薪江載候而も相陳候得は薪よりおろし猶又利害申聞又ハ再篇縛り敲或薪江載吟味仕候

一右躰ニ仕候而も相陳候得ハ海老に懸ケ申候

右海老と申候ハ胡床をかゝせ兩足首を一ッニ結右足首より首江縄を懸前之方江段々〆寄せ申候

但海老之致方ハ有之候得共右躰仕候樣ハ無之儀ニ御座候

一右躰ニ仕候而も相陳候得ハ伺之上拷問仕候拷問ハ後ロ手ニ縛りに釣しに懸申候

引書○法曹後鑑

(八十四)遠島者再犯御仕置之事

於其島

從前々之例

一遠島もの島にて死罪以上之惡事いたし候にたゐては　死罪

但同類又ハ於其島ねたり事いたし或ハあばれ候類之もの島替　於其島　死罪

寛保二年極

一島を逃候もの

寛保元酉年十一月牧野越中守石河土佐守水野對馬守伺之内

八十四(伺)遠島者再犯御仕置之事

一遠島者島ニ而重キ惡事いたし候ニたゐてハ　於其島　極死罪

但同類并輕キ惡事いたし候もの島替

一同不埒有之ニたゐてハ　外之島江遣ス

朱書

● 右二ヶ條元文二巳年八丈島流人佐野新藏其外大勢徒黨致惡事企候ニ付頭取四人ハ死罪同類ハ島替之例を以相認申候

懸紙

● 是ハ只今迄之取計を以相認申候

極

一島を逃候もの

朱書

○ 是ハ寶永四亥年豆州三宅島流人之内六人阿古村ニ有之小船を盗島可逃去と企船場江出候砌右之内瀧兵衛と申もの心替り致注進ニ付吟味之上無訴ニ付於其島獄門

於其島

死罪

一八八

懸紙

○

是ハ只今迄之取計ニ准シ相認申候

右之内一ヶ條寛保二戌年二月廿九日伺之通御下知本文極

延享元子年八月大岡越前守島長門守水野對馬守伺之内

遠島者再犯御仕置箇條之内

一遠島もの島にて重キ惡事いたし候にたゐてハ

● 但同類幷輕キ惡事いたし候もの島替

於其島

死罪

●

極

但同類又ハ於其島ねたり事いたし或ハあはれ候類之もの島替

朱書

是ハ但書輕キ惡事いたし候もの之儀此度御好ニ准し懸紙之通書改申候

右同月十七日伺之通御下知但書極ル

延享二丑年八月廿日御下ヶ被成候

御定書帳面之内御附札有之箇條書拔之内

初箇條

一遠島もの島にて重キ惡事いたし候にたゐてハ

於其島

死罪 ×

御附札

朱書

重キ惡事と計ニ而ハ如何ニ候左之通可相改

極

一遠島もの島にて死罪以上之惡事致候ニたゐてハ

×

一八九

八十四㊅遠島者島にて惡事致候例

元文二年巳八月於彼地御仕置可申付旨御代官江申渡

一伊豆國八丈島流人佐野新藏致頭取流人共申合致我儘ニ付御仕置一件

新藏致我儘嶋役人共ニ難題申懸其上無筋願を企流人ともをかたらい彼是偽申觸島中を騷せ人之家江火を懸燒討可致由申之剩流人共を催島役人之家江踏込不法之仕形重々不屆ニ付左之通申付

八丈島流人

於其島死罪　佐野新藏

佐野新藏と申合致頭取流人共を勸メ無筋之儀を申觸島中を騷せ剩役人之家江踏込夜中罷在其上常々致我儘百姓之家居江も踏込あばれ法外之仕形重々不屆ニ付左之通申付

八丈島流人

於其島死罪　土屋半三郎

同　玄了

新藏半三郎玄了同樣ニ致頭取流人共を勸其上常々百姓家居江も踏込我儘致狼藉重々不屆ニ付左之通申付

於其島死罪　八丈島流人　彌兵衛

新藏其外頭取と申合正三郎彦八ハ島役人之家江踏込法外之仕形東昌寺儀ハ右之もの共と一同申合無筋儀申觸其上常々致我儘不屆ニ付左之通申付

八丈島之内　八丈島流人　鈴木正三郎

青ヶ島江島　東正寺

替申付　彦八

佐野新藏等申旨ニ任せ無筋儀申觸島中騷せ其上平生致我儘不屆ニ付左之通申付

八丈島之内　八丈島流人　鈴木數馬

小島江島替　和田宗仙

申付　影窓院

新助

半兵衛

島役人より江戸江之注進書之趣流人共江申聞不屆ニ付青ヶ島小島之内又ハ八丈島近邊之島江見計島
替可申付候

文左衛門
次郎兵衛
十郎右衛門
源　助

右之通御仕置被仰付見ごり之ため流人有之外之島々江も高札建させ可申旨被仰出候ニ付豆州利島神
津島新島三宅島御藏島八丈島大島右於島々可存此旨之段高札可爲建旨巳八月被仰渡
一隱岐肥州天草ニも流人有之候間右兩所江も高札相建可申旨巳八月被仰渡
一薩摩肥州五島ニ流人之儀御勘定所江ハ帳面出不申候ニ付承合候處右兩所ニも于今流人有之由ニ御座
候左候ハヽ高札相建させ可申旨是又伺候處高札案文相渡可申旨巳九月被仰渡

八丈島之内末吉村
名主市十郎悴
清右衛門

巳十一月二日於評定所
遠島申渡

佐野新藏悴
佐野万助

巳拾壹歳

右之もの父新藏儀不行跡有之遠島被仰付候處於八丈島流人を相催島町人江對彼是難題申かけ剩火を附
燒討可致由申觸島中を騷動いたし旁不埒至極ニ付於島新藏死罪被仰付候依之万助儀遠島被仰付候處幼
少ニ付拾五歳迄親類佐橋十左衛門ニ御預ケ之旨申渡

寶永四亥年四月御代官小長谷勘左衛門江申渡

一豆州三宅島流人之内武州幸手町瀨兵衛是ハ醫師仙慶事外五人阿古村ニ有之小船を盗島可逃去と企船
場江出候砌瀨兵衛心替り島役人江爲告知候ニ付捕吟味之處無相違旨申之瀨兵衛儀雖致一味其節ニ至
リ島役人江注進仕候新島之例を以爲御褒美米貳俵但三斗五升入可被下哉之旨御代官より申立伺之上
左之通申付

於其島死罪之上
獄門

傳　助
伊右衛門
吉右衛門
由兵衛
傳兵衛

一瀬兵衛ニ爲取候褒美米之儀ハ追而證文取可申旨申渡

比罪例

寛政七卯年御渡
御期定奉行
根岸肥前守伺

伊豆國附新島流人藤助島拔いたし候一件

元江川太郎左衛門
當時三河口太忠
伊豆國附新島流人
藤藏事
入墨
織藏

右之者儀死罪御仕置ニも可相成致惡事候得共拾五歳以下ニ付入墨重敲又ハ遠島ニ相成候處猶又島拔いたし殊ニ江島浦ニ而浦役人江僞之儀申立候儀可相顯と逃去候段不屆ニ付死罪

但科之次第相認右島江札爲建

此儀根岸肥前守別紙を以申上候趣を相含再應評議仕候處吟味書之趣ニ而ハ耳一向通し不申無筆ニ而

吟味可致樣無之申口不相分旨御座候得共先達而死罪ニ可成科も兩度有之右島を立退江島浦江漂着いたし同所をも一旦逃去藤澤宿にて被召捕候上ハ最初より白狀不致ものとも品違島拔ニハ無紛既ニ右不屆之段ハ相弁罷在吟味之節慈悲相願候旨申立致島拔候ハ眼前之儀ニ付御仕置弛候而ハ外流人共御取締にも相響可申哉何れ島拔いたし候不屆ハ一件之内藤助同樣之ものニ御座候間伺之通死罪申付科之次第相認右島江札爲建

評議之通濟

元江川太郎左衛門
當時三河口大忠
伊豆國附新島流人
藤助

右之者儀不屆有之新島江流罪ニ相成候處織藏申合船を盗島を逃去江島浦江漂着之節も名前國所を僞候段不屆ニ付死罪

但科之次第相認右島江札爲建

此儀島を逃去候ものの之御定ニ而其島ニおゐて死罪可申付ものニ候得共島方江之渡海差支も有之先達而伺之上島江不差遣死罪申付科之次第相認右島江札爲建置候例も有之段根岸肥前守申上候上ハ伺之通死罪申付科之次第相認右島江札爲建可申

文化十三子年御渡
御勘定奉行
曲淵甲斐守伺

伊豆國附八丈島之内三ッ根村孫兵衛倅本次郎親を打殺候一件

杉庄兵衛支配所
伊豆國附八丈島之内三ッ根村
百姓
孫兵衛倅
本次郎

右之もの儀親孫兵衛并弟次郎一同焚火いたし居候處薪無數候間薪持參り候樣次郎江申付遣し候を孫兵衛儀憤り此もの取ニ可參處召仕にハ無之弟江申付候段不埒之旨叱りを請親之機嫌を損し候儀殘念ニ存候迄ハ覺罷在逆昇いたし其後之始末不弁と之申分難立有合候薪燃さしを以孫兵衛を打擲いたし同人即死爲致候始末重々不屆至極ニ付於島死罪

此儀親を殺候ものニ付引廻し之上磔之御定相當ニ候處島方住居之ものニ付猶又先例取調候處相見不申候間御勘定奉行より島支配御代官杉庄兵衛江申渡同人方をも相糺候處御代官江川太郎左衛門島方支配いたし候節八丈島枝島青ヶ島清受庵學柳倅太郎儀常々小盗いたし被叱候儀を遺恨ニ存天明三卯年五月七日夜宗福寺庫裏江附火いたし候ニ付閤江入置候處同六月廿一日夜閤を拔出又候宗福寺本堂江附火いたし候段不屆ニ付於八丈島死罪可申付旨松平周防守殿御差圖之段久世丹後守御勘定奉行勤役之節太郎左衛門江申渡候由庄兵衛申聞右ハ如何之譯ニ候哉評定所書留ニハ相洩候得共前書丹後守より之下知書寫則太郎左衛門よりも差出し相違も無之儀ニ而的例にハ無之候得共右之通島方住居之もの死罪以上之科を犯し候而も御當地江召呼本罪相當之御仕置不申付候例有之候上ハ素より國地とハ別段之儀殊品々差支も有之候ニ付遠島もの再犯御仕置御定ヶ條之内死罪以上之惡事いたし候ニたゝてハ於其島死罪と有之候ニ准し伺之通於島死罪

評議之通濟

以上引書○御仕置例類集

(八十五)牢拔手鎖外シ御構之地江立歸候もの御仕置之事

寛保二年極

一牢拔出候もの　本罪相當より一等重ク可申付

但牢番人中追放

同
一牢屋燒失之節放チ遣不立歸もの　不立歸不及咎本罪相當之仕置可申付

同
一右燒失之節放チ遣立歸候ハヽ　本罪相當より一等輕ク可申付

寛保二年
延享元年極
一手鎖外シ候もの　過怠手鎖ニ候ハヽ、定之日數より一倍之日數手鎖吟味之內掛置候ものに候ハヽ、百日手鎖

寛保二年極
但手鎖外シ致欠落候ハヽ本罪之相當より一等重ク可申付

寛保二年極
一同外シ遣候もの　過料

延享元年極
但手鎖外シ候もの欠落いたし候ハヽ輕追放

寛保二年極
一同預リ候家主　過料

但手鎖外シ候もの欠落いたし候ハヽ尋申付不尋出にたゐてハ重キ過料

同
一宿預ケ之もの欠落いたし候ハヽ　本罪相當之御仕置より一等重ク可申付

從前々之例
一御構之地ニ徘徊いたし候もの　前之御仕置より一等重ク可申付

延享二年極
但追放或所拂等申付候處直ニ居町居村江立歸罷在候ハヽ御仕置不相用もの之事ニ候間入墨之上最前之御仕置より一等重ク可申付

延享二年極
一御構有之ものを隱し差置候もの　追放ものを隱置候は、江戸拂　江戸拂之ものを隱置候ハヽ、所拂　入墨以上ニ可申付惡事ニ候ハヽ、死罪

同
一御構之地ニ致徘徊候上惡事いたし候もの

入墨ニ可申付程之惡事ニ無之ハ

前之御仕置より一等重ク可申付

尋申付不尋出候ハヽ

過料

入墨之上前之御仕置より一等重ク可申付

敲

死罪

從前々之例

一預ケ置候ものを取逃し候もの

延享二年極

一入墨を拔御構之地江立歸候もの

但入墨以上ニ可申付惡事いたし候ハヽ死罪

寛保二年極

一入墨を拔遣候もの

追加

享保六年極

一入墨ニ成候以後又候盗いたし候もの

延享二年極

但外之惡事いたし候ハヽ重敲

追加

寛保三年極

一一端追放に成其後御構場江立歸りあはれ候もの

追加

同

一宿預ケに成候上難立儀箱訴又ハ越訴等可致ため立退外江宿を替候もの

追加

從前々之例

二追放等ニ成候儀ハ曾而不存候得共身元も不承紛請人ニ立候もの

追加

從前々之例

一追放等ニ成候儀ハ曾而不存請人有之候故とくと吟味も不致店ニ差置候もの

死罪

元宿江引返手鎖可申付

過料

過料

寛保元酉年十二月牧野越中守石河土佐守水野對馬守伺之内

八十五㊀牢拔手鎖外シ御構之地江立歸候もの御仕置之事

死罪

◆一牢拔出候もの

但牢番人中追放

朱書

是ハ享保三戌年牢屋敷燒失之節小盗いたし候付入牢申付置候處欠落いたし候もの先格を以遠島ニ伺候處此類死罪可罪可仕段被仰出候ニ付牢拔出候ものも右ニ准し可申付候科無之吟味之内牢舍之ものハ可爲遠島候段元文三午年伺之趣相認候處左之通御附紙を以被仰渡候

牢屋燒失之節欠落もの之事

是ハ牢屋欠落いたし又小盗にても致候事候哉左も無之候ハヽ死罪ニハ及間敷候惣而此一件文言惡敷紛敷候間可除

右之通御下知有之候間元文四未年伺帳ニハ其科之品ニより一等重キ御仕置可申付由相認申候得共當酉十一月手鎖外し致欠落候もの死罪ニ而可有之段猶又被仰渡候左候得ハ牢拔出候ものも死罪ニ可申付儀ニ奉存候午年御附紙之趣も御座候ニ付猶又奉伺候

一手鎖外シ候もの

但手鎖外シ致欠落候ハヽ死罪

朱書

是ハ當酉十一月御書付之趣を以相認申候

一同外シ遣候もの

但手鎖外シ候もの致欠落候ハヽ死罪

定之日數より一倍之日數

手鎖或ハ重キ過料

重過科●

一同預り候家主

但手鎖はつし候もの欠落いたし候ハヽ尋申付不尋出にたゐてハ中追放

朱書

右二ケ條當酉十一月伺之上御下知之趣を以相認但書ハ此度評議仕書加申候

御附札

一牢拔出候もの

右相當より一等重ク可申付

一牢屋燒失之節放チ遣シ不立返もの

是ハ相當之罪科ニ申付不立返之咎を當ルニ及間敷候

一右燒失之節放遣候もの立歸候ハヽ相當より一等輕ク可申付事

右牢拔手鎖外御仕置件之通たるへき哉此儀に付度々之御書付ニ而紛敷候間彌致評議今一往可申上事

一手鎖外シ候もの

但手鎖外シ致欠落候ハヽ死罪

右死罪相止是又一等重ク可申付候幷手鎖外シ遣し本人致欠落候ハヽ死罪と有之候を江戸十里四方追放歟

重キ過料

◆一牢拔出候もの

極

本罪相當より二等重ク可申付

歷紙

極 但牢番人中追放

極 一牢屋燒失之節放ヲ遣不立歸もの　不立歸不及咎本罪相當之御仕置可申付

極 一右燒失之節放ヲ遣立歸候ハヽ　本罪相當より一等輕ク可申付

一手鎖外シ候もの　定之日數より一倍之日數手鎖

但手鎖外シ致欠落候ハヽ本罪之相當より一等重ク可申付

一同外シ遣候もの　過料

但手鎖外シ候もの致欠落候ハヽ江戸十里四方追放

極 一同預り候家主　過料

極 但手鎖外シ候もの欠落いたし候ハヽ尋申付不尋出にて

ゐてハ重キ過料

朱書

右ハ御附紙之趣奉承知猶又評議仕候處御尤ニ奉存候手鎖外し候もの預り候家主右ニ准し御仕置相改懸紙を以奉伺候

一宿預ヶ之もの欠落いたし候ハヽ

朱書

是者御搆之地江立歸徘徊いたし候もの一等重キ御仕置申付候ニ准し相認申候

極 一御搆之地ニ徘徊いたし候もの　其科之品より一等重キ御仕置可申付候

但追放或ハ所拂等申付候處直ニ御搆之地江立歸罷在候ハ御仕置不相用もの之事ニ候間死罪

朱書

是は唯今迄之取計但書は此度評議之上相認申候

一御搆有之ものを隱し差置候もの　前之御仕置より一等重ク可申付

朱書

是者當酉六月御書付之趣を以相認申候

一御搆之地ニ致徘徊候上惡事いたし候もの　御仕置當人同然

朱書

是者此度評議之上相認申候

■ 其科之相當より一等重ク可申付候　○

懸紙

■ 死罪

極

一預ヶ置候ものを取逃し候もの　遠島

朱書

是者唯今迄之取計を以相認申候

一入墨を抜候もの　死罪

朱書

是者享和八卯年本所横川町つう治兵衛儀六年以前入墨申付候處食いたし入墨を焼抜上野黒門前豆腐屋治兵衛方江同所く
され平八詰ニ立奉公ニ出不屆ニ付治兵衛死罪平八遠島
此朱書懸紙を以張消

一同抜遣候もの　遠島

朱書

右二ヶ條只今迄之取計を以相認申候

御附紙

御構之地ニ致徘徊候上惡事致候もの是者死罪たるへし

尋申付不尋出候は、過料

御附紙

一入墨を抜立退候もの　死罪

右立退と申儀書加可申哉

一同抜遣候もの

是は重キ過料可然候過料難出もの敲放し

懸紙

一入墨を抜御構之地江立歸候もの　死罪

一入墨を抜候もの　遠島

一入墨を抜遣候もの　敲

朱書

右入墨抜候一件御仕置之儀御附紙之趣奉承知御尤奉存候入墨計之御
仕置御座候付右之ものは御下知之趣を以一統輕く遠島申付可然奉存
候間書加奉伺候

懸紙

一入墨を抜御構之地江立歸候もの　死罪

○ 極 一入墨を拔遣候もの

敲

右之内七箇條寛保二戌年三月廿二日伺之通御下知本文極

寛保二戌年十一月大岡越前守石河土佐守水野壱岐守伺之内

⊕ 一一旦追放ニ成候以後及物を以人を可害所存ニ而 御搆場内ニ候ハヽ 死罪

あはれ候者 御搆場外ニ候ハヽ 遠島

▲ 朱書

御搆場外之例

是者寛保二戌年八月上總國牛袋村宇右衛門先達而中追放ニ成候處御搆場之内ニ而無之候得共間もなく居村近所江參り臨差

● を拔あはれ不屆至極ニ付御下知之上遠島

懸紙

● 是ハ此度評議之通相認申候

掛紙

▲ 一一旦追放ニ成其後御搆場江立歸あはれ候ものを召捕差出候ハヽ 死罪

一追放以後御搆場之外ニ而も及物を以人を可害といたし候もの 死罪

ワ 一入墨ニ成候以後又候惡事いたし候もの 死罪

朱書

是者享保六丑年三月町觸を以相認申候

極

タ 一宿預ケに成候上難立儀箱訴又ハ越訴等可致ため立退外江宿を替候もの 元宿江引返し手鎖可申付

朱書

是ハ此度評議之上相認申候

朱書

右三箇條御下知相濟次第牢拔手鎖外し御搆之地江立歸候もの御仕置箇條之内江書加可申候

右之内一ケ條寛保三亥年五月三日伺之通御下知本文極

寛保二戌年十二月御好御書付之内

㊥ 一一端追放ニ成其後御構場江立歸りあはれ候ものを召捕差出候ハヽ　死罪

一追放以後御構場之外ニ而も及物を以人を可害と致候ハヽ　死罪

朱書

追放者立歸之文言并御掃場之儀外一ヶ條可加哉

延享元子年三月大岡越前守石河土佐守水野對馬守伺之内

牢拔手鎖外シ并御構之地江立歸候もの御仕置之事

極

一追放等ニ成候儀者曾而不存候得共身元も不承糺請人に立候もの　過料

朱書

是者寛保三亥年十二月水谷町壹町目市右衛門倅亀島町九兵衛三年以前同町十右衛門捨子一件之ものニ而其節重追放ニ相成候處前方知人ニ而候故市右衛門方江參何方ニ而成共店借り呉候樣ニ願候付御科ニ成候儀ハ曾而不存亀島町十右衛門店を借り遣剃請人ニ立不埒ニ付過料三貫文申付之

掛紙

極

一追放等ニ成候儀ハ曾而不存請人有之候故とくと吟味も不致店ニ差置候もの　過料

朱書

是者亀島町家主十右衛門儀水谷町市右衛門請合候ニ任せ九兵衛追放ニ成候儀ハ曾而不存候得共とくと吟味も不致店借置不埒に付過料三貫文申付

掛紙

是者右同断

是者只今迄之取計を以相認申候

右同年四月八日伺之通御下知本文極

延享元子年八月大岡越前守島長門守水野對馬守伺之内

牢扱手鎖外シ御構之地江立歸候もの御仕置ケ條之内

極

一手鎖外シ候もの

懸紙

定之日數より一倍之日數手鎖

過怠手鎖ニ候ハヽ、
定之日數より
一倍之日數手鎖

吟味之内懸置候ものに候ハヽ、
百日手鎖

極

但手鎖外シ致欠落候ハヽ本罪之相當より一等重ク可申付

朱書

是者先達而吟味之内手鎖懸置候もの之儀書載不申候付懸紙之通書改申候

極

一同外シ遣候もの

但手鎖外シ候もの欠落いたし候ハヽ江戸拾里四方追放

過料

懸紙

極

但手鎖外シ候もの欠落いたし候ハヽ輕追放

朱書

是者但書御仕置町在と雖樣ニ罷成其上先達而之御仕置附輕御座候間評議之上懸紙之通書改申候

前之御仕置より一等重ク可申付

一御構之地ニ徘徊いたし候もの

○ 但追放或所拂等申付候處直ニ御構之地江立歸罷在候ハ御仕置不相用もの之事ニ候間死罪

掛紙

○ 但追放或所拂等申付候處直ニ居町居村江立歸罷在候ハ御仕置不相用もの之事ニ候間死罪

朱書

是者去亥十二月龜島町九兵衛儀先年捨子一件之儀ニ付重追放ニ相成候處御構場所東海道邊徘徊いたし其後江戸江罷出店を借住居いたし候處去亥九月廻船荷物紛失出入之儀ニ付九兵衛召出遂吟味處紛失一件ニハ不拘候得共追放申付候後御構場所東海道筋ニ罷在其後江戸江罷出住居仕候段不屆ニ付死罪相伺候處右御仕置之儀ニ付御尋書ニ御定書之但書直ニ御構之地江立歸と有之ハ追放申付候處其足にて立歸り罷在候ハ少も御仕置を不用もの之事にて右之ものハ直立歸候ニ而ハ無之一等重ク可申付と有之に相當り可申哉之旨被仰出候處一向御構場所立去不申剩江戸江罷出住居仕候御仕置不相用道理ハ同樣ニ付死罪可然哉之旨申上候處九兵衛儀直ニ江戸江立歸たるにて無之其江戸表ニ而惡事も不致候間敵之上重追放可申付旨松平伊豆守殿御差圖有之候

懸紙

是ハ但書直ニ御構之地江立歸罷在候もの死罪と相認候得共去寅十二月伺之上御下知有之候趣を以懸紙之通書改申候

右之内二ヶ條同月十七日伺之通御下知本文極

延享二丑年八月御下ケ被成候

御定書帳面之内御附札有之箇條書抜之内

七ヶ條目

極

一宿預ケ之もの欠落いたし候ハヽ

御下ケ札

朱書

其科之品により之文言認直候

其科之品により一等重キ御仕置可申付

八ヶ條目

一御構之地ニ徘徊いたし候もの

但追放或所拂等申付候處直ニ居町居村江立歸罷在候ハ御仕置不相用もの之事ニ候間死罪

御下ケ札

左之通可改

極

本罪相當之御仕置より一等重ク可申付

前之御仕置より一等重ク可申付

朱書

此但書之文言惡事不致候ハヽ死罪ニハ及間敷候左之通可改哉

極

、、一御仕置不相用もの之事候間入墨之上最前之御仕置より一等重ク可申付

九ヶ條目

極

一御構有之ものを隱し差置候もの

御仕置當人同然

十ケ條目

極

一御搆之地ニ致徘徊候上悪事いたし候もの

御下ケ札

▲

朱書

當人同然之御仕置ニハ及間敷候左之通可相改

極

追放ものを隠置候ハヽ、江戸拂江戸拂之ものを隠置候ハヽ所拂

死罪

十二ケ條目

極

一入墨を拔御搆之地江立歸候もの

御搆之地ニ致徘徊候上悪事いたし候もの

朱書

悪事いたし候と計ニ而ハ軽重無之如何ニ候左之通可相改哉

極

入墨以上ニ可申付程之悪事ニ候ハヽ、死罪入墨ニ可申付程之悪事に無之ハ前之御仕置より一等重ク可申付

死罪

御下ケ札

十四ケ條目

一入墨に成候以後又候悪事いたし候もの

御下ケ札

朱書

入墨を拔御搆之地江立歸候斗ニ而死罪ニハ及間敷候左之通可改哉

一入墨を拔御搆之地江立歸候もの

入墨之上前之御仕置より一等重ク申付

極

但入墨以上ニ可申付悪事いたし候ハヽ、死罪

死罪

十六ケ條目

追加

一追放以後御搆場之外にても及物を以人を可害といたし候ハヽ、

朱書

悪事と斗ニ而ハ如何左之通可改哉

一入墨に成候以後又候盗いたし候もの

死罪

死罪

延享二丑年八月大岡越前守鳥長門守木下伊賀守伺之内

牢拔手鎖外シ御構之地江立歸候もの御仕置箇條之內

追加

○一入墨に成候以後又候惡事いたし候もの　死罪

懸紙

極

○一入墨に成候以後又候盗いたし候もの

但外之惡事いたし候ハヽ重敲

朱書

是ハ御附札之趣奉承知候然共再犯盗いたし候計之御仕置ニ而ハ外之惡事いたし候節之御仕置洩候間但書懸紙之通相認可申

朱書

是ハ追放間も無之に人を可害と致し公儀を不憚儀ニ而死罪ニ被行候事も可有之候如此類ハ臨時評議之上科之輕重極可申儀例ニハ引用可申候得共條目ニ其意味難書取却而紛敷候間此ヶ條一向可除

×

×

右之通奉伺候此外帳面御附札之通奉畏候

右同年九月四日伺之通御下知本文極

一一端追放ニ成リ其後御構場江立歸あはれ候もの　死罪

右本文極候節之伺書扣不相見

元文三年年三月十四日彌此通定置追而被仰出等此帳ニ可記儀ハ書記可申候其節々其趣書付可差出旨評定所一座江被仰聞候帳面之內

八十五(元)牢拔幷手鎖外シ御構之地江立歸候もの之事

● 入牢之もの享保三戌年牢屋敷燒失之節欠落いたし候右者小盗致候ものにて右之類ハ前々も遠島に成候付其旨相伺候處向後ハ此類死罪可仕旨被仰出候

一牢拔出候ものも右に准可申付候且又科無之類吟味之內牢拔出候ハヽ可爲遠島候尤牢番ハ其外之ものハ相當之御仕置可申付

一手鎖はつし候ものの之事右准し御仕置可申付候

一御構之地江立歸致徘徊候迄ニ而外ニ子細無之候ハヽ前之科より一等重可申付候惡事抔仕候ハヽ勿論重科可申付候事

牢屋燒失之節欠落之事

是者牢屋欠落いたし又小盜ニ而も致候事にも無之候哉左候ハヽ死罪ニ不及間敷候歟而此一件文言惡敷紛敷候間可除

●

元文四未年三月差上申五月十日絵色御書入御好之趣有之帳面之内

牢拔幷手鎖外シ御搆之地江立歸候ものの之事

入牢之もの享保三戌年牢屋敷燒失之節欠落いたし候右ハ小盜いたし候ものにて右之類ハ前々も遠島ニ成候ニ付其旨相伺候處向後ハ此類死罪可仕旨被仰出候

▲一牢拔出候ものも右ニ准し可申付候且又科無之類吟味之内牢拔出候ハヽ可爲遠島候尤牢番人其外之ものハ相當之御仕置可申付候

一手鎖はつし候ものの之事右准し御仕置可申付候

一御搆之地江立歸致徘徊候迄ニ而外ニ子細無之候ハヽ前之科より一等重ク可申付候惡事抔仕候ハヽ勿論重科可申付候事

掛紙

牢拔手鎖外シ御搆之地江立歸候もの之事

一牢拔出候もの其科之輕重ニ一等重ク御仕置可申付候尤牢番人其外之ものハ相當之御仕置可申付候

一手鎖はつし候ものの之事右ニ准し御仕置可申付候

一御搆之地江立歸致徘徊候迄ニ而外ニ子細無之候ハヽ前之科より一等重可申付候惡事抔仕候ハヽ勿論重科可申付候事

朱書

此箇條御好ニ付文言相改申候

▲

享保十三申年

増田太兵衛御代官所

豐後國戸畑村

才助

右之もの同國魚返村市助と申ものを打殺候ニ付入牢申付吟味候處市助儀才助妻と不義仕候ニ付其節兩人共殺害可致處才助親兄差留其外親類共取扱向後市助戸畑村江徘徊仕間敷由之證文取之才助妻早速離別仕事濟候然ル處市助儀右證文を破リ馬に乘り戸畑村江罷越剩才助通り懸候節馬上より足を出し才助ニ慮外いたし候ニ付堪忍難成小柱木ニ而市助頭を打候得ハ相果候由才助申之右之通市助儀重々不屆之仕形ニ付才助儀御搆有之間敷哉之旨相伺候處右ハ手代計之吟味ニ候間増田太兵衛撿見罷越候節吟味可爲仕旨被仰聞太兵衛吟味仕候處右之通相違なく候然處才助儀太兵衛彼地江不參着内牢を破リ欠落候ニ

付召捕遂吟味候處親類共江戸表江被召呼候由及承候欠落候ハヽ被召呼候儀も可相止と一筋に存欠落候由申之ニ付猶又伺之上才助儀右牢を破候依科天草江遠島

元祿十三辰年十一月十一日御代官秋山七郎左衛門江申渡

一但州朝來郡久田和村百姓與三右衛門方江夜盗ニ入候無宿左五郎長四郎幷宿いたし候長左衛門儀入牢申付置處庄五郎長四郎申合夜中密ニ牢を破リ逃出候處長四郎ハ尋出庄五郎ハ尋申付伺之上左之通申付

死罪　長左衛門

一長四郎儀ハ牢より逃候間首獄門ニ申付

獄門　長四郎

一牢番人之儀過怠牢舍申付

同年十一月十八日申渡

一庄五郎儀召捕候旨申來ニ付死罪申付牢より逃候間首獄門可申付旨申渡

寛保元酉年七月町奉行所より書抜來候例書之内

寛保元酉年十一月三日御渡

手鎖外シ欠落之節御仕置定之御書付

一手鎖はつし致欠落候ハヽ死罪ニ両候得共其儘居候ものハ格別輕候間定之日數より一倍之日數手鎖かけ置候歟重キ過料歟之内ニ両可然手鎖はつし遣候も同斷

一右之通申付候ハヽ此度之家主ハ重キ過料たるへし

類焼之節牢屋致欠落候囚人死罪ニ成候例

死罪　與兵衛

南新堀町甚兵衛店
市左衛門召仕

右與兵衛儀小盗ニ付入牢之處牢屋焼失之節致欠落候ニ付前々牢屋焼失之節欠落ものハ遠島ニ成候故此度も遠島と伺候處向後も此類死罪可仕旨被仰出候

享保三年戌二月廿二日

享保十五戌年三月

右十郎右衛門儀山王御旅所前甚兵衛と賣綿出入ニ付吟味之内於評定所手鎖をかけ家主江預ケ置候處手鎖をはつし致欠落候科ニ依て死罪可申付ものニ候得共去酉十月廿四日池上御法事之御赦遠島

黒田豐前守掛り
神田松下町代地
小兵衛店
十郎右衛門

手鎖を拔遣し候もの

元祿九子六月六日

芝金杉中通二町目
甚左衛門店
德兵衛

右德兵衛寄子
甚五太夫

甚五太夫儀下谷坂本町四町目角太夫店十兵衛手鎖懸罷在候處子細ハ不存甚五太夫方江參候而手鎖拔實申候由申ニ付右十兵衛儀先月廿五日牢舍申付候今日此もの共召出詮議之上申分不分明ニ付而德兵衛甚五太夫於評定所牢舍

右甚五太夫　子六月廿六日死罪
右德兵衛　子六月十四日赦免

宿預ケニ成欠落いたし候もの尋出し御仕置ニ成候例

元祿十三辰年五月六日

南八町堀五町目
寡兵衛店
助七召仕
治郎助

此もの儀主人質物ニ取置候衣類六拾五色并金子拾兩貳分銀七拾匁餘錢三貫文餘致取逃候付七年以前五月廿一日牢舍申付候處牢内ニ而相煩候ニ付當二月元大坂町小右衛門店孫助ニ預置候處孫助儀致亂心當三月七日自害仕相果候處此もの同日致欠落候ニ付爲尋候得共行衛不相知候然處今晩南鍋町狂言役者宮崎傳吉方江致參宮罷歸候由ニ而參候を捕置傳吉訴來ルニ付同心遣し召寄詮議之上重々不屆ニ付保田越前守方より牢舍

右者於品川六月晦日獄門

寛保元酉年十二月

武州荏原郡
古川村
助三郎

右之もの儀常々あはれものニ而押借等いたし新宿村作右衛門元妻を誘引出し不屆ニ候間輕追放申付候
處村方江立歸不屆ニ付遠島

寛保三亥年
一旦追放ニ成御構之地ニ罷在候もの并店請家主御仕置之例

亥九月晦日入牢
亀島町十右衛門店
七郎兵衛事
九兵衛

右七郎兵衛事九兵衛儀三年以前重追放申付候處御仕置を不相用御構場所東海道筋ニ罷在其上當九月廿
七日より當地ニ店借リ住居仕候段重々不屆至極ニ御座候間御定書之通死罪可申付候哉

水谷町壹町目
三郎兵衛店
預ケ
市右衛門

右市右衛門儀七郎兵衛事九兵衛重追放ニ相成候ものとハ曾而不存旨申候得共店請ニ相立候上ハ別條無
之身分ニ候哉得と可相糺處無其儀重追放もの之店請ニ立店借リ遣候段不埒ニ御座候間過料三貫文可申
付候哉

此御仕置御定書ニハ無御座候

亀島町
家主
預ケ
十右衛門

右十右衛門儀七郎兵衛事九兵衛重追放相成候ものとハ曾而不存市右衛門店請ニ相立候故店借シ候旨申
候得共得と吟味も不致不念ニ御座候間過料三貫文申付候

此御仕置御定書ニハ無御座候

亀島町十右衛門店
九兵衛御仕置之儀御尋ニ付申上候書付

亀島町
十右衛門店
島長門守

九兵衛

御構場所罷在當九月御當地ニ店借住居仕候段不屆ニ付御定書之通死罪と相伺候
牢拔手鎖外し御構之地江立歸候もの御仕置之内
一御構之地ニ徘徊いたし候もの
前々御仕置より一等重ク可申付
但追放或所拂等申付候處直ニ御構之地江立歸罷在候ハ御仕置不相用もの之事ニ候間死罪
此御定書之趣ニ而ハ前々御仕置より一等重ク可申付と有之候重キ追放より重ク候得ハ遠島と相見候得共夫ニも及間敷候得ハ重ク敲又重追放可然候哉御定書之但書ニ追放所拂等申付候處直ニ御構之地江立歸りと有之ハ追放ニ申付候處其足ニ而立歸り候もの之事ニ而先年此類之もの有之少も御仕置を不用と申評議有之たる樣ニ覺候此度之者ハ直ニ立歸候ニ而無之候間一等重ク可申付と有之ニ相當り可申ものニ候如何

御請

右龜島町十右衛門店九兵衛重追放申付候處御構場所之内東海道筋ニ罷在一向御構之場所立去り不申候其上當九月より御當地ニ店借住居仕罷在候儀御仕置を不相用ものニ付御定書但書之内御仕置を不相用との趣を以御定書之通死罪と奉伺候書面之通一向御構之場所立去り不申剩御當地ニ店借り住居仕候ハ御仕置を不相用道理ハ同樣ニ可有御座哉評議仕候處死罪被仰付可然奉存候以上

島長門守

十二月

寛保三亥年十二月十九日御下知書

島長門守江

島長門守掛
龜島町十右衛門店
七郎兵衛事

九兵衛

此もの直ニ江戸表江立歸申たるニ而無之其上江戸表ニ而此御惡事も不致候間敲候上重追放

水谷町壹町目
三郎兵衛店

市右衛門

龜島町
家主

十右衛門

過料三貫文

過料三貫文

右之通御仕置可被申付候以上

十二月

追放等ニ成候ものを圍置致世話候もの之儀ニ付町觸

公儀御仕置ニ而江戸拂又ハ追放等ニ成候もの御構之場所ニ隱罷在候も有之樣ニ相聞候畢竟右躰之もの乍存圍置或世話いたし候もの在之故之儀ニ而不屆至極ニ候間於相顯ハ圍置候ものも當人同然之御仕置申付家主五人組名主迄乍存差置候ハヽ相當之咎可申付候條此旨可觸知者也

寛保元年酉六月

享保十五戌年正月十三日申渡

一岡田庄太夫御代官所奥州伊達郡佐原村太郎右衛門儀去酉年福嶋城下江相詰百姓共勸メ爲致騷動不屆ニ付追放申付候處御構之場所ニ罷在其上不屆之儀共有之重々不屆ニ付

右太郎右衛門江戸宿ニ候處追放乍存御構之地江差置不屆ニ付

引廻之上獄門　太郎右衛門

預り候者を取逃し候宿

下谷長者町

所拂　文左衛門

一小石川龍門寺門前三右衛門手代庄右衛門致引負候ニ付手鎖かけ請人牛込山伏町彦右衛門ニ預ケ置處自分ニ而手鎖はつし致欠落に付彦右衛門ニ尋申付處不尋出ニ付

過料錢五貫文　彦右衛門

本所横川町十兵衛地守くされ平入寄子欠落づら

治兵衛

此もの儀六年以前人殺出入ニ成其後伯父方江參り金子ねたりあはれ候儀ニ付又々入墨之上追放に成り重而立歸候ハヽ死罪ニ成り候段申渡も承なかし所江立歸剩入墨を拔奉公ニ出尋之砌ハ影を隱し其上常々所ニ而武士町人に不限口論を仕かけあはれ候段重々不屆ニ付享保八年卯六月廿二日水野和泉守殿依御差圖死罪

入墨を拔候もの再御仕置之例

享保八卯年

本所横川町十兵衛地守くされ平八

此ものゝ儀づう治兵衛と申もの六年以前人殺出入ニ而追放ニ成其以後伯父方江參あはれ候儀ニ付入墨之上又々追放ニ成候段能乍存宿いたし剰入墨有之候而ハ奉公ニ難差出段申聞候故治兵衛儀灸を致入墨を燒拔候付上野墨門前豆腐屋彌兵衛方江平八請に立奉公ニ差出候段重々不屆ニ付享保八年卯六月廿二日水野和泉守殿依御差圖遠島

寛保二戌年三月廿一日御渡被成候御書付

入墨を拔立返り候ものハ入墨を拔候よりハ立歸候事科重く候畢竟入墨を拔心安住居をも致へきと立歸候儀を元にいたし巧たる儀にて不屆に候得ハ立返り不申入墨を拔候計にてハ其科當ラ候に不及候間入墨を拔候と計之ヶ條ハ可除事

寛保三亥年

上総國牛袋村

宇右衛門

此もの儀先達而江戸表ニ而不埒有之中追放ニ成候處其以後酒ニ醉親類同國井尻村十郎兵衛宅江參り十郎兵衛方ニ居候宇右衛門伯母に不逢せ儀を憤り及口論脇差を拔あはれ候段不屆に付遠島

享保六丑年三月御書付

一入墨いたし追放申付候もの立歸惡事致し候もの有之ニ付死罪ニ罷成候向後ハ右之族致惡事候ハヽ死罪ニ可申付候間此旨町中可觸知候以上

三月

類例

明和元申年十一月九日

入墨御仕置ニ成候以後入墨を燒消候もの御仕置之事

松平周防守殿御渡

御書面御仕置向後御定同樣心得可相伺旨被仰聞承知仕候

酒井飛驒守

依田豐前守

安藤彈正少弼

申十一月九日

入墨御仕置ニ成候以後商等いたし候障ニ可相成と存入墨を燒消候もの如元入墨之上江戸拂之御仕置申付候儀向後御定同樣ニ相心得可被伺候事

引書〇御仕置筋御書付留

明和九辰年御渡
町奉行
牧野大隅守伺

御扶持方可被召放御家人牢屋類焼之節立歸候儀ニ付評議

當月十九日御渡被成候牧野大隅守差上候四ッ谷南伊賀町藤兵衛外三人御仕置之内火消役安藤内藏助組同心大橋惣左衛門同組同心目付役柳澤長十郎儀先達而御扶持召放と相伺置候處牢屋類焼之節放し遣立歸候ニ付一等輕五十日押込可被仰付哉之段申上候處右ハ御家人之儀御扶持召放候本罪ニ而一等輕く五十日押込ニ而ハゆるみ過候儀ニハ無之哉之段大隅守江御尋有之御答書差上候得共右御仕置當評議仕可申上旨被仰聞候

此儀御家人之御定ハ無御座候得共遠島ニ可成者牢屋類焼之節放遣立歸候得ハ百姓町人同樣御定之通一等輕く中追放ニ相成候間夫より輕キ御仕置ニ可成もの迚も同樣ニ可有之候哉御家人ニ而御扶持召放より輕キハ其身一代切之小普譜入被仰付候も有之候得共是迚も一段輕ニ御座候間一等輕く可申付御定江ハ相當不申閉門逼塞等之御咎も御座候得共輕キ御家人ハ日數之多少ハ格別押込ニ而相當可仕候哉勿論御奉公筋ニ拘り候惡事ニ候ハヽ差略も可有御座候得共大橋惣左衛門柳澤長十郎共ニ御奉公筋ニ拘り候儀ニハ無之段大隅守申上其上大隅守御答書之内ニ申上候町人所拂ニ可相成もの立歸三十日押込被仰付候ニ見合候得ハ兩人共百日ニも及不申大隅守伺之通五十日押込被仰付可然哉ニ奉存候

辰四月

評議之通濟

明和九辰年御渡
奈良奉行伺

所拂之もの又ハ御仕置ニ成候近キ親族并夫等を隱置候もの御咎之儀ニ付評議

先達而評議仕申上候小菅備前守相伺候御搆之塲所江立入居候もの共御仕置之内和州伊與戸村助四郎妻小りん園田村源次郎妻つたは三十日手鎖と評議仕申上安藤彈正少弼手限ニ而相伺候作州河井村甚右衛門江逢候一件之内因州智頭宿伊右衛門妻けんハ三十日押込と御咎附仕差上兩端ニ相見候段御尋ニ御座候

此儀御定書ニ御搆有之ものを隱し差置候もの追放ものを隱置候ハヽ江戸拂江戸拂之ものを隱置候ハヽ所拂と有之所拂之ものを隱置候もの之御定ハ無御座并御仕置ニ成候近キ親族夫等御搆之地江立入候を穩便ニいたし候ハ難默止筋ニ御座候間前書御定有之類も品ニ寄一二段輕御咎ニ相成右所拂之ものを隱し置候と御仕置ニ成候近キ親族夫等を隱し置候ものハ手鎖押込之内申付候例有之其節々似寄之例を以御咎附仕候間區々ニ相成候得共或ハ逼塞遠慮ニ當リ候科ニ而も寺持無之出家ハ御仕置之仕

形無之候故押込申付候又ハ手鎖過料も輕キ寺院出家之家來ハ押込申付百姓町人躰之女ハ手鎖過料ニ相成候も御座候得共品ニ寄押込申付候も有之手鎖押込過料ハ身分相當之御咎ニ而差而輕重ハ有御座間敷哉ニ奉存候然共御咎相成候ものハ押込より手鎖之方難儀仕候間百姓町人躰ニ而ハ押込之方輕く御座候間以來所拂之ものを隱置候もの并御仕置ニ成候近キ親族夫等を隱し置候もの男ハ三十日手鎖女ハ三十日押込と相極置候ハヽ區々ニハ相成申間敷哉ニ奉存候

卯十二月

評議之通濟

安永二巳年御渡
道中寮行伺

相牢之もの牢拔を注進致し候儀ニ付評議

無宿　丈七

右之者儀伯父六右衛門方ニ而繭五貫目盗取欠落致し其後伊奈半左衛門方ニ中間相勤候節同人家來在出之供先ニ而錢八百文浴衣一ッ盗取合印附候看板着用之儘欠落致し幸手宿江罷越半左衛門家來飛脚と偽宿申付旅籠代不相拂其上大島村名主吉右衛門方江罷越路用錢貳百文銜取草加宿湯屋藤右衛門方ニ而布子壹ッ着逃致し候段旁不屆ニ付死罪可被仰付哉之段可奉伺處半左衛門方牢内ニ罷在候節相牢之もの牢拔可致と破リ候節注進致し候ニ付一等輕く入墨敲

此儀伊奈半左衛門家來飛脚之由申偽候科ハ重キ御役人之家來と偽かたり致し候もの之御定ニ准し死罪相當可仕處相牢之もの牢拔可致と破り懸り候節注進仕候間御仕置ゆるみ可申處差當例相見不申候牢屋燒失之節放遣し立歸候ハヽ本罪相當より一等輕可申付旨之御定ニ見合逃去不申所存ハ趣意同樣ニ可有御座哉ニ付伺之通入墨敲可申付旨被仰渡可然哉ニ奉存候

巳六月

評議之通濟

以上引書○御仕置例類集

安永四未年八月

御構之地徘徊いたし候もの御仕置之儀ニ付御書付

松平右京大夫殿御渡

御定書御構之地致徘徊候もの前之御仕置より一等重ク可申付但追放或ハ所拂等申付候處直ニ居町居村

江立歸罷在候ハヽ御仕置不相用もの之事候間入墨之上最前之御仕置より一等重く可申付と有之候然處右御構之地致徘徊候もの先達而入墨有之候ハヽ其入墨を相用ひ前之御仕置より一等重く可被相伺候右類之御仕置區々ニ無之樣可被致候

八　月

安永六酉年十一月

御構之地徘徊致し候もの增入墨之事

松平右京太夫殿御渡

御構之地徘徊候もの入墨有之候ハヽ其入墨を相用前之御仕置より一等重く可申付旨先達而相達候得共以來ハ入墨有之もの御構之地不立去候ハヽ先達而之入墨之際江一筋增候而入墨申付前之御仕置より重く可申付候尤何ヶ度立歸候共右之通追々一筋宛入墨を相增し前之御仕置より一等つゝ重く可被相伺候右之趣向後不紛樣可被心得候

十一月

以上引書○御仕置筋御書付留

三　奉　行江

享和二戌年八月廿八日

重追放ニ成候者御構之地江立入候御仕置評議

對馬守江右京亮左近將監立合上ル同十一月十五日大炊頭殿御直無宿仁三郎御下知書土佐守伺之通御渡

評定所一座江

入墨又ハ敲之上重追放ニ成候もの御構之地江立入候節御仕置之儀先達而申上候評議之趣一應ハ相聞候得共一躰御定書之御趣意重追放之一等重キハ遠島たるへきを猶又入墨歟敲歟之内ニ申付如元重キ追放ニ而可差置事と相見候間其上ハ直ニ遠島ニ相成候事ニ可有之入墨其上敲を經候而可爲遠島事とハ不相聞且元重追放以後御構之地江立入候所ニ至り候而ハ最初之御仕置ニ拘り輕重可有樣も無之候得ハ入墨之有無ニ隨ひ御仕置一段にも二段にも相成候得ハ如何之樣ニ有之候猶又評議いたし了簡之趣可申上旨且入墨と敲之差別ハ初入墨有之ものハ敲重追放ニ申付入墨無之候得ハ入墨重追放たるへき事ニ可有之哉左候得ハ此度之仁三郎も最初入墨重追放申付可然事之旨御書取を被仰聞候

此儀御定書ニ御構之地ニ徘徊いたし候もの前々御仕置より一等重ク可申付と有之且本罪より一等重キ御仕置ハ可爲遠島以下事、重追放ハ入墨又者敲候上重追放と有之右段取之儀一決之心得無之候故先例も區ニ伺評議も一事兩樣ニ申立候得共今般御書取之趣を以再三勘弁評議仕候處御定書ニ御構之地ニ徘徊いたし候もの前々御仕置より一等重ク可申付と有之候間重追放ニ成候もの御構之地ニ徘徊

いたし候ハヽ遠島ニ相成候儀ニ御座候得共一等重キ御仕置ケ條ニ重追放ハ入墨又ハ敲候上重追放と有之候間左之通ニ而相當と奉存候

前科ニ入墨有之候ハヽ敲之上重追放

前科ニ敲有之候ハヽ入墨之上重追放

前科ニ入墨も敲も有之候ハヽ敲之上重追放

一重追放ニ成候後御搆之地江徘徊致し候もの

右之御仕置ニ成候後又候御搆之地ニ徘徊致し候ハヽ遠島

但重追放申付候處直ニ居町居村江立歸罷在候もの有之節ハ御仕置不相用もの之儀ニ付御定書但書ニ見合入墨之上最前之御仕置より一等重ク可申付處御搆之地ニ徘徊致し候共入墨之上重追放ニ可相成を直ニ居町居村江立歸罷在候もの同樣ニ而ハ御定之御趣意にも振候間重追放ニ限り直ニ居町居村江立歸候ものハ入墨并敲等之不及沙汰直ニ遠島

御搆之地徘徊之科ニ無之候而も

一入墨敲之上重追放ニ成候者御搆之地徘徊いたし候ハヽ遠島

右之通向後御極被置候ハヽ紛敷儀も無御座區ニ不相成可然哉ニ奉存候然ル上者今般土佐守相伺候無宿仁三郎儀一旦敲之上重追放ニ成候ものニ付伺之通遠島可申付旨被仰渡可然哉ニ奉存候御渡被成候御書取壹通返上仕候以上

戌八月

重追放ニ相成候後御搆場所江立入候ものの御仕置之儀ニ付御書取

別紙被申聞候評議之趣并伺書之儀ケ樣之品兼而細々極置候ハ却而度々之障にも可相成事候間書付とも相返シ候向後此類之御仕置有之節ハ此評議ニ泥ます其もの壹人之罪狀を以評議有之樣ニ存候事

但武家之家來無宿もの之儀者素より居町居村無之筈之もの共ニ候處強而居町居村可准場所を定候儀抔ハ一躰隱にも有之間敷存候事

右御書取享和四子年二月五日牧野備前守殿御直松平右京亮小田切土佐守松平兵庫頭江御渡先達而一座より進達いたし有之候重追放ニ成候もの御搆之地江立入候御仕置評議仕候趣申上候書付重追放ニ成御搆之地江立入候御仕置評議仕候趣申上候書付重追放ニ成御搆之地不立去もの御仕置之儀再應評議仕候趣申上候書付并御搆場所不立去武家之家來無宿之儀ニ付伺書共御返シ被成候

引書○御仕置伺御下知留

天保二卯年
内藤隼人正掛
中村八太夫申聞候

南品川宿無宿鐵五郎外壹人御搆之地江立入博奕其外惡事いたし候一件

南品川宿無宿
入墨
鐵五郎

右之もの儀先達而ねたり又者博奕いたし候依科入墨之上中追放御仕置ニ相成候後武藏國者御搆之地と乍辨立入同國南品川宿地内外壹ヶ所野田海岸等ニおゐて同宿七五郎悴富五郎其外名住所不存もの共手合ニ加り廻リ筒繁博奕度々いたし其上右富五郎申合同宿喜作方江罷越金子押借申掛居込(スワリコミ)不立去罷在候始末不屆ニ付重追放

御仕置附

右御搆之地徘徊いたし候上惡事いたし候もの入墨以上ニ可申付惡事ニ候ハヽ死罪入墨ニ可申付程之惡事ニ無之ハ前之御仕置より一等重ク可申付と有之御定ニ見合博奕いたし候不屆ハ入墨ニ可相成惡事ニハ無之候得共富五郎申合喜作方江罷越金子押借申掛候不屆ハ押借いたし候もの御仕置當御尋有之候節寛政三亥年評定所一座評議濟ニ見合入墨敲ニ相當リ候處此ものハ事を不遂候ニ付猶先例相糺候處享和

二戌年菅沼下野守御勘定奉行勤役之節伺之上御仕置申付候羽州山村百姓利八儀困窮ニ候迚野田村七十郎外四人より金子可借受と存付村内七三郎外六人をも申勸七十郎其外之もの共方江度々罷越金子借用いたし度段押而申掛候始末不屆ニ付敲之上所拂申付候例有之候間前書御定ニ見合前々御仕置より一等重く重追放

右御尋ニ付御答

別紙南品川宿無宿鐵五郎外壹人御仕置附ニ博奕いたし候不屆ハ入墨可相成惡事ニハ無之段申上候處右博奕ハ三度以上廻リ筒いたし候もの之御定ニ而中追放ニ相當右中追放ハ入墨程之惡事ニハ無之哉且押而金子借受可申と居込罷在候處被召捕候儀ニ付召捕ニ不相成候ハヽ事を遂可申候得共畢竟召捕ニ相成候故事を不遂次第候右之譯ニ而も事を不遂方江附可申哉之旨御尋ニ御座候

此儀御定書ニ

入墨以上ニ可申付惡事ニ候ハヽ
死罪
入墨ニ可申付程之惡事ニ無之者ハ
前々御仕置より一等
重ク可申付

一御搆之地ニ致徘徊候上惡事いたし候もの

右之通有之入墨以上ニ可申付と有之候ハたとへハ再犯之惡事追放或ハ遠島なと各入墨より以上ニ相當

り候事之様ニも相とれ御尋之趣御尤ニ御座候得共右入墨以上と御座候ハ入墨又者入墨敲等都而入墨附候罪科之儀ニ而入墨ニ可申付程之悪事ニ無之と有之候ハ右入墨之内ニ可申付悪事ニ無之者と申御趣意ニ相心得前々より御仕置相伺候儀ニ而入墨以上と御座候儀入墨付キ不申悪事ニ而も入墨より以上ニ相當リ候悪事と申御趣意ニハ相心得不申候依之今般之鐵五郎儀も御構之地江立入中追放ニ相當リ候悪事致し候ものニ而入墨ニ可申付悪事ニハ無御座候間前之御仕置より一等重く可申付と有之方江寄重追放と相伺候儀ニ御座候且召捕ニ相成候故事を不遂もの之儀取調候處此度例ニ申上候羽州山村百姓利八儀も吟味書之趣ニ而ハ是又被召捕候故事を不遂ものにて矢張鐵五郎同様之趣意ニ御座候間鐵五郎儀も右例同様事を遂候ものよりハ御仕置相弛ミ可然哉ニ奉存候

引書○法曹後鑑

文久三亥年十二月
長崎奉行伺

評定所一座

本五島町無宿卯吉御構之地立入候一件

書面評議いたし申上候通り御仕置被仰渡且下ケ札を以申上候趣ハ伺之通可相心得旨被仰聞承知仕候

子三月五日

本五島町無宿　卯吉　亥四拾歳

右之もの儀先達而不屆有之敲之上中追放其後重追放敲之上重追放相成候身分ニ而知ル人共より合力可受と尚又御構之地江立入候始末不屆ニ付遠島

書面享和二戌年評議ニ御下ケ被成候小田切土佐守町奉行勤役之節相伺候無宿仁三郎儀先達而不屆有之中追放重追放或ハ敲之上重追放ニ相成候身分ニ而又候御構之地江立入候段不屆ニ付遠島と相伺評議之上入墨之上重追放と申上候處御尋有之再應評議之上御定書御構之地徘徊いたし候もの前之御仕置よりは一等重く可申付と有之且自本罪一等重キ御仕置ハ可爲遠島以下事重追放ハ入墨又ハ敲候上重追放と有之御文言段取之儀一決いたし兼先例も區々ニ候得共二段ニ取候筋ハ有之間敷故を以重追放ニ成候後御構之地徘徊いたし候ものの前科ニ入墨有之候ハヽ敲之上重追放前科ニ敲有之候ハヽ入墨之上重追放前科ニ敲も入墨も無之候ハヽ敲之上重追放御構之地徘徊之科ニ無之候とも入墨歟敲之上重追放ニ成候もの御構之地徘徊いたし候ハヽ遠島と御極被置候ハヽ紛敷儀も有之間敷趣を以伺之通遠島と申上其通相濟候評議有之候處文化元子年右評議之趣兼而細ニ極置候而ハ却而後々之障りニも可相成事ニ候間向後此類之御仕置有之節ハ此評議ニ泥ます其者壹人之罪狀を以評議有之候様ニと之御書取之趣も有之候得共右評議之趣意不可然と之御沙汰にハ無之御構之地江立入候もの共之内にハ

悪事之次第品々差別も有之候儀ニ付兼而御取極被置候而ハ却而後弊ニ可相成と之御掛念ニ而被仰聞候御趣意ニも可有之哉然ル處其後も區々之先例相見右ハ前書御文言段取之儀を矢張一決いたし兼候より一事兩樣又ハ先例ニ相泥み候儀ニ有之候故と被存然ル上ハ此後も區々之儀有之間敷とも難申候ニ付勘辨評議仕候處一旦重追放ニ相成ハヽ直ニ遠島被仰付候而も可然を重追放ニ限入墨又ハ敲候上追放と有之候ハ遠島もの減方之儀ニ付享保十六亥年御書付之趣も有之島方江被差遣候もの共成丈人數相減候樣と之御趣意より前科之次第ニ寄敲歟入墨之内を束子再ひ重追放と御定被置候儀ニ而入墨又ハ敲候上と有之又ハ御文言ハ入墨敲之内いつれニ而もと之御文言顯然といたし再三重追放可被仰付と之儀とハ不相聞二段ニ取候筋ニハ有之間敷候ニ付前書評議濟ニ基キ御搆之地徘徊いたし候迄之もの共ハ

一重追放ニ相成候後御搆地徘徊いたし前科之次第ニ寄敲歟入墨之上重追放ニ相成尚又御搆之地徘徊いたし候もの　遠島

右之通相心得向後區々之儀無之候樣仕度右ニ而可然思召候ハヽ今般之卯吉ハ御搆之地徘徊いたし候迄之ものニ而外ニ子細も無之候間伺之通遠島可申付旨被仰渡可然哉ニ奉存候

子二月　評定所一座

信州瀬山村勇次郎預中逃去候一件吟味伺

書面金三郎清左衛門岩右衛門七之助善九郎七郎儀御預り所より村内勇次郎を頼申付有之上ハ精々可念入候處金三郎清左衛門岩右衛門七之助ハ番致し乍罷在銘々居眠り勇次郎手鎖之儘逃去を不存罷在其上金次郎外五人一同勇次郎行衛日限尋申付置候處度々日延之上不尋出段不埒ニ付金三郎清左衛門岩右衛門七之助善九郎ハ過料錢三貫文ヅヽ申付七郎ハ急度叱リ置勇次郎行衛永尋申付一同證文取之差出且過料錢ハ三日之内其方役所江取立御勘定所江可被相伺候以上

申二月

比罪例

安永九子年御渡
大坂町奉行伺

無宿長柄の十右衛門牢拔いたし候一件

長柄の　十右衛門

右之もの儀先達而遠島申付候船中ニ而圍を拔出候ニ付再入牢申付候處又候牢内おゐて惡事仕剩在牢きよを突殺公儀を不恐仕方及度々候ニ付手鎖足かせを懸入牢申付置候處又候切炭屋之平兵衛幷役之もの伊兵衛と馴合牢を拔順慶町商店ニ而品々奪取逃去候段重々不屆至極ニ御座候間大坂三郷町中引廻之上獄門

此儀先達而船圍を拔出幷牢内ニ而女を殺候依科獄門と評議仕申上其通御下知相濟候ものニ候處御下知以前又候牢を拔出剩商店ニ而盗いたし候段ハ重々不屆ニ而此ものハ格別大膽成致惡事候ものニ御座候間伺之通大坂三郷町中引廻之上獄門

評議之通濟

摂州西成郡
役人村
和泉屋利兵衛借屋
住吉屋
伊兵衛

右之もの儀在牢中爲手當相詰居候身分ニ而四人賴ニ隨ひ質物之世話いたし德用取剩牢内拔出候手段ニ致荷擔手鎖を外し遣シ牢屋敷表門を連出候段重々不屆至極ニ御座候間死罪

此儀先達而評議仕申上候無宿樽屋之彌助長柄の十右衛門船圍を拔出牢内ニ而女を殺候一件之内堂島彌左衛門桑野敎達借屋浪屋次兵衛儀牢番ニ罷出候處きよ江小刀貸遣候より事起リ既十右衛門右小刀を以牢仕切之板切明ケきよを引入密會仕剩突殺候仕儀ニ相成候段不屆ニ付死罪ニも可奉伺者ニ候得共きよ儀遠島申渡置候身分殊ニ女之儀ニ付暫時貸遣候迚別條も有之間敷と誠ニ心得違候趣無相違相聞候間遠島可申付哉之旨申上其通相濟候ニ見合此ものハ德用を取殊ニ十右衛門手鎖を外し牢屋表門を連出候段旁不屆至極ニ御座候間伺之通死罪

評議之通濟

天明八申年御渡
火附盗賊改
堀帶刀伺

大坂無宿　庄七事
忠五郎

南傳馬町二丁目助八方ニ居候常五郎盗致し候一件

右之もの儀一旦盗いたし候依科大坂ニ而入墨之上敲御仕置ニ成候後江戸表江出同類馴合町家所々江忍入衣類其外品々盗取候段及白狀相煩候ニ付品川溜預ヶニ相成居候處迚も重キ御仕置難遁身分と察し相溜囚人三人と馴合右溜を破り拔出猶又同類馴合町家所々江拔身を持押込金錢衣類品々盗取其後被捕入牢いたし居候處牢屋敷類燒之節放ニ相成途中より逃去又候同類馴合又ハ壹人立往來之ものを追落し或ハ町家數ヶ所江拔身持押込金銀錢衣類盗取候段重々不屆ニ付町中引廻之上獄門

此儀御定書ニ入墨ニ成候以後又候致盗候もの死罪家藏江忍入五度以上之度數致盗候もの物不得取候共引廻之上死罪牢拔出候もの本罪相當より一等重く可申付盗可致と徒黨いたし人家江押込候もの頭取獄門同類死罪追落致し候もの死罪と有之右御定ニ相當候科數々ニ御座候間伺之通町中引廻之上獄門

評議之通濟

天明八申年御渡
堺奉行伺

押込中外出いたし候一件

一ッ橋領知
泉州泉郡太村
百姓　平兵衛

右之者儀三十日押込申付候内相愼罷在候處所持之苗代小兒共踏荒候旨承候付愼之儀も不相弁罷在其節村役人共より嚴敷申付置其後右苗代ニ水無之旨隣家之もの爲相知候ニ付當惑いたし水堰入早速罷歸候旨申之候得共村役人共申付候儀不相用押込中兩度迄外出仕候段不埒ニ付最初申付候押込之日數一倍之積六十日手鎖

此儀手鎖外シ候もの過怠手鎖ニ候ハヽ定之日數より一倍之日數手鎖と有之御定ニ見合押込定之日數より一倍六十日押込

評議之通濟

寛政九巳年御渡
長崎奉行伺

於肥前國長崎捕候無宿共溜拔致し候一件

高木作右衛門御代官所
元肥前國彼杵郡
浦上村中野郷
無宿

紋左衛門

外壹名

右之もの共儀同類申合又ハ一分ニ而盗致し五十敲百敲入墨追拂或ハ入墨百敲追拂等ニ成候上搆之地江立入候ニ付追而佐州金銀山爲水汲人夫差遣候積り溜入申付置候處數月ニ相成難儀ニ候迚兩人申合溜を破拔出外園之堀を乗越逃去リ候段不屆之至ニ付中追放

此儀長崎奉行所之仕來ハ重中輕追放之外追拂長崎拂と申御仕置有之追拂ハ長崎市中并郷中を搆長崎拂ハ市中計相搆郷中ニ罷在候儀ハ差搆不申儀之由兼而承罷在候右ハ御當地之御仕置ニ引當候得ハ追拂ハ江戸拾里四方追放長崎拂ハ江戸拂ニ准し可申然處此もの共搆之場所江立入候科ハ御搆之地ニ徘徊いたし候者前之御仕置より一等重く可申付旨之御定ニ見合輕追放ニ相當リ候處溜拔いたし候不屆も有之候間牢拔出候もの本罪相當より一等重く可申付旨之御定ニ見合右本罪之輕追放より一等重く中追放ニ相當リ候間此度相伺候御仕置之儀ハ振れ候儀も無御座候得共吟味之趣ニ而ハ搆之場所江立入候を召捕吟味之上外ニ惡事無御座候ニ付追而佐州金銀山水汲人夫ニ可遣旨申渡溜入申付置候由有之右之趣ニ而ハ無罪之無宿之取扱ひニ而水汲人夫ニ可遣旨申渡候儀と相聞御搆之地江立入候もの前之御仕置より一等重く可申付儀ハ相弁不申儀と相見申候間以來都而御搆之地江立入候ものハ外ニ惡事無之候とも御仕置之儀其度々相伺可申

評議之通濟

寛政十一未年御渡
佐渡奉行伺

佐州小倉村久藏盗いたし吟味中牢拔致し候一件

佐州雜太郡小倉村

久藏

右之もの儀去午十二月十一日夜羽茂郡河内村清七方土藏之家尻を切品々盗取候儀吟味相片付入墨申付置候處當三月兩度牢拔いたし數日影を隱し剩所々江忍ひ入盗いたし候段重々不屆之至ニ付引廻し之上死罪

此儀吟味書之趣ニ而ハ一旦忍入之盗致し死罪之御下知有之候後兩度迄牢拔いたし其上〆り有之土藏屋根を切破り貳ヶ所江這入又ハ戸明有之所四ヶ所江も入盗いたし候ものニ有之寶暦十辰年土屋越前守町奉行之節伺之上御仕置申付候無宿入墨與市事彌助儀先達而不屆有之入墨之上重追放ニ相成候後御搆場所徘徊いたし無宿共手合ニ而武家方町方六ヶ所ニ而衣類米穀盗取賣拂代金分ヶ取右之外武士屋敷四ヶ所ニ而土藏錠前を外し衣類盗取吟味中溜預ニ相成御役所江呼出候節囚人入置候園を逃出候以後武士屋敷江盗ニ入土藏錠前を外し衣類盗取手合有之町方ニ而盗致し又候被捕致入牢候處假揚リ

屋を逃出先達而盗取候品取集候儀とも重々不屆至極ニ付爲見懲町中引廻し之上獄門申付候類例有之
右ハ〆り有之所五ヶ所江這入其外七ヶ所ニ而盗致し候ものニ付五度以上忍入候もの之御定ニ而引廻
之上死罪ニ相當り候處溜又ハ揚り屋を逃去候不屆も有之候故爲見懲御仕置重リ候儀と相見此もの忍
入之盗ハ三ヶ所ニ候得共本文之所業ハ至而不屆ニ相聞於事實死罪相當とも難申候間右類例をも見合
伺之通引廻し之上死罪

評議之通濟

寛政十二申年御渡
町奉行
根岸肥前守伺

無宿入墨竹松御構場所江立入候一件

無宿
入墨
竹
松

右之もの儀先達而盗いたし候依科入墨之上敲其後中追放重追放御仕置ニ相成候處入墨有之候而ハ人交
難成候迚自分と右入墨を消紛又候御構場所江立入候段不屆ニ付入墨ハ如元入直し猶又増入墨之上重追
放

此儀御定書ニ一等重御仕置ヶ條ニ重追放ハ入墨又ハ敲之上重追放と有之候ニ付消紛し候入墨を如元
入直し候計ニ而ハ一等重御仕置之入墨ニ無之見込ニ而消紛候入墨ハ如元入直し猶又増入墨之上重追
放さ肥前守相伺候ハ入墨又ハ敲之上重追放と有之候御定御文言を二段ニ取申上候儀と相聞候得共入
墨又ハ敲之上と有之候ハ入墨歟敲之内一方相濟候得ハ直ニ遠島ニ而右御文言ニ齟齬いたし候儀も有
御座間敷哉既去ル寅年池田筑後守町奉行之節伺之上御仕置申付候無宿仕立屋鐵事入墨善心儀先達而
敲又ハ入墨御仕置ニ相成右入墨を消紛候ニ付如元入墨之上江戸拂其後度々御構之地江立入重追放或
ハ敲之上重追放申付候處又候入墨を消紛御構場所江立入候段不屆ニ付如元入墨之上遠島申付候例有
之増入墨無之相濟候間右例ニ見合如元入墨之上遠島

評議之通濟

以上引書○御仕置例類集

八十八 辻番人御仕置之事

金子ハ壹兩より以上雜物ハ
代金ニ積壹兩位より以上ハ
引廻之上

一廻リ場之内ニ而金銀又ハ雜物等を拾ひ隱し居候番人　死罪

金子ハ壹兩より以下雜物ハ代金ニ積壹兩位より以下ハ　入墨敲

寛保二年極

一廻リ場之内ニ而人を切殺或爲手負候を見遁しニ致相手を不留置番人　中追放

同

一於辻番所博奕いたし候番人　遠島

享保八年極

一廻リ場之内捨子又ハ重病人有之節外江捨候番人　死罪

寛保二年極

但倒死有之を押隱し取捨候にたゐてハ江戸拂

寛保元酉年十一月牧野越中守石河土佐守水野對馬守伺之内

八十六伺　辻番人御仕置之事

一廻リ場之内ニ而金銀又ハ雜物等を拾ひ隱し居候番人　死罪

但輕品候ハヽ入墨之上敲

引廻之上

朱書

是ハ享保十八丑年本所石原辻番人治左衛門七兵衛八兵衛儀廻リ場之内ニ大風呂敷ニ包捨有之候を八兵衛見出し罷歸相知候付治左衛門罷越右之品かつき參リ三人ニ而申合何方江も不相屆内證にて質物に置賣拂不屆ニ付引廻之上死罪ニ成候例を以相認申候

懸紙

是ハ唯今迄之取計を以相認但書ハ此度評議之上書加申候

極

一廻リ場之内ニ而人を切殺或爲手負候を見遁しニいたし相手を不留置番人　中追放

朱書

是ハ唯今迄之取計之趣を以相認申候

極

一於辻番所博奕いたし候番人　遠島

朱書

是ハ享保十三申年芝三田組合辻番所番人藤七博奕いたし候ニ付引廻遠島又ハ死罪ニも可被仰付哉之段伺候處左近將監殿御差図ニより爲見こり之引廻遠島に成候例

懸紙

是ハ右同斷

極

一廻リ場之内捨子又ハ重病人有之節外江捨候番人　死罪

極

但倒死有之を押隱し取捨候にたゐてハ江戸拂

朱書

是ハ辻番所定書之趣ニ准し但書ハ此度評議之上相認申候

右之内三ヶ條寛保二戌年二月廿九日伺之通御下知本文極

延享元子年八月大岡越前守鳥長門守水野對馬守伺之内

辻番人御仕置箇條之内

極

一廻リ場之内ニ而金銀又ハ雜物等を拾ひ隱し居候番人　死罪　引廻之上

▲

×　但輕品ニ候ハヽ入墨之上敲

懸紙

極

▲

金子ハ壹兩より以上雜物ハ代金ニ積壹兩位より以上ハ　引廻之上　死罪

金子ハ壹兩より以下雜物ハ代金ニ積壹兩位より以下ハ　入墨　敲

×

朱書

是ハ但書輕品と先達而相認候得共此度御好ニ准掛紙之通書改申候

右同年八月十七日伺之通御下知本文極

朱書

但ノ書輕品と先達相認候得共此度御好ニ准懸紙之通書改申候

右御好御書付不相見

八十六(六)

享保十八丑年

本所石原阿部伊賀守
外四人組合辻番所番人

次左衛門

七兵衛

此ノもの共儀辻番廻リ場之内ニ衣類品々大風呂敷ニ包捨有之候を相番人八兵衛夜廻りニ出見出シ罷歸爲相知候ニ付次左衛門罷越辻番所江かつき參相番人共申合何方江も不相屆内證ニ而質物ニ置賣拂候辻番人相勤候上ハ捨物之儀辻番組合江相屆ヶ差圖を請可申處内證ニ而無沙汰質物ニ置賣拂三人ニ而金錢分ヶ取候段不屆至極ニ御座候間外辻番人見こり之爲メ引廻シ死罪可被仰付哉之旨去ル八月廿二日松平伊豆守殿江相伺候處同十一月五日引廻死罪可申付旨御下知相濟申候

元祿七戌年七月十二日

一渡邊平三郎蘆野左門福原内匠組合辻番人與兵衛外四人儀當閏五月廿四日暮六時蘆野左門屋敷前ニ而湯島天神前次郎兵衛店浪人志村作之進と申もの被切殺候處辻番所より間も無之候に切人留メ不申不屆ニ付牢舍申付置處左之通申付

享保十三申年

辻番所ニ而博奕宿致并捨物を不訴出私欲ニ仕送候辻番人之例

江戸拂

辻番人

五人

飯倉町二丁目仁兵衛店
惣右衛門請負芝三田
武士方組合辻番所
番人番頭

藤七

此ナもの儀於辻番所博奕宿致候者ニ付通例之通遠島可被仰付候哉但辻番所之儀屋敷内とハ違重々不屆ニ御座候外辻番人共見こり之ため引廻し遠島可被仰付哉又ハ引廻死罪ニも可被仰付哉之段享保十三年申十月十六日松平左近將監殿江相伺候處同十一月十八日引廻遠島可申付旨御下知相濟申候

市谷七軒町八兵衛店

久兵衛

右久兵衛手下之辻番

長兵衛
同断　喜右衛門
同断　新左衛門

曲淵市郎右衛門藤井市兵衛岡崎半九郎河野藤左衛門金田遠江守福井藤十郎石原太郎左衛門水野兵左衛門右八人より四谷牛小屋之辻番を久兵衛請負去六月十七日之夜辻番近所ニ而人を切候處公儀江も不訴右八人之方江も隱密ニいたし其上死人之脇差を手前江取置死骸を辻番所ニ埋置候ニ付穿鑿之内牢舍左之通御下知

死罪
久兵衛
長兵衛
喜右衛門
新左衛門

江戸中
追放

辻番所定書之内

一辻番人之もの捨物等不致様に心を付可申儀勿論ニ候然共萬一捨子有之節ハ早速取揚只今迄之通ニ取計ひ可申候若六ヶ敷存候末之儀於有之ニハ可行嚴科事

但病人酒醉有之節も同斷之事

一件之品ハ去ル丑年筋違橋外ニ而捨子有之節請負辻番之もの右之子を外江捨候儀後日相顯番人ハ被行死罪候依之自今請負辻番人ニ捨子致させ間敷との請負ハ不申付筈ニ候間此旨堅可相心得事

享保八卯年二月

比罪例

享和三亥年御渡
町奉行
根岸肥前守伺

水野左近將監足輕

山岡仲藏

水野左近將監足輕山岡仲藏外一人行倒もの之儀ニ付不埒之取計いたし候一件

右之もの儀當十月廿四日辻番所ニ相詰罷在暮時頃見廻ニ出候節持場内ニ無宿久兵衛病氣ニ而倒居候ハゝ早速辻番所江引取其筋江可申立處重病之躰ニも無之歩行も可成ニ相成候由申候迚相番人江も不申聞持場内商ひいたし居候幸右衛門江爲立退候様申聞同人より物貰躰之もの江申付爲立退候處久兵衛儀同

廿六日中川修理大夫池田山城守辻番廻リ場内ニ行倒罷在御小人目付見分之節前書之始末ハ押隱し病人躰之無宿ハ見懸不申趣申立候儀共旁不屆ニ付江戸拂

此儀一旦病人躰之無宿を不見懸候由申立候儀も有之候得共久兵衛を爲立退候段重之不屆ニ御座候乍然重病之躰無之歩行も可成ニ相成候由申之段ハ久兵衛申口も符合いたし候儀ニ付廻リ場内捨子又ハ病人有之節外江捨候番人死罪之御定江ハ難引當根岸肥前守御仕置附ニ申上候青山庄藏ニ見合同人ハ川島宅右衛門任申ニ物取にても可有之と鳥目遣し非人江渡候ものにて此度之仲藏ハ重病ニハ無之候とも病人ニハ無相違久兵衛を爲立退候樣幸右衛門江申聞同人儀物貰躰之もの江申付爲立退候始末ニ相成候段品不宜候間江戸拾里四方追放

評議之通濟

嘉永元申年御渡
京都町奉行伺

酒井若狹守中間嘉太郎其外之もの共小堀勝太郎家來村田鐐五郎外三人江爲疵負右疵ニ両鐐五郎外壹人相果候一件

所司代地組足輕
丹波口辻番所當番

木内淺右衛門
外壹人

右之もの共儀去未九月廿六日夕七時頃酒井若狹守殿中間嘉太郎外拾壹人儀小堀勝太郎供侍村田鐐五郎并石吉榮吉音吉を及及傷候場所ハ持場内三拾間程之隔ニ両手近之場所ニ有之候上ハ早速可出會處猶豫罷在相手之もの共取留も不致段慮候ニ相當其上最初中間共爲見合罷在候も不心付段辻番人之詮も無之不埒ニ付両人とも日數百日押込

此儀御定書ニ廻り場之内ニ両人を切殺或爲手負候を見遁ニいたし相手を不留置番人中追放と有之ニ見合吟味書之趣ニ両ハ番所持場内三拾間程東之方ニ人聲いたし候ニ付見受候處中間躰之もの人數拾五六人計木力を持狼藉罷在候得共多人數之儀猶豫罷在出會候節ハ相手ニ候哉拾二三人東之方江逃去右場所ニ帶刀人疵受惱居候と有之爲手負候を見留候趣ハ吟味書ニ不相見候得共御場所柄おゐて狼藉およひ候を見受なから多人數ニ候迚猶豫いたし居候段品輕とも難申候間中追放

評議之通濟

以上引書○御仕置例類集

(八十七)重科人死骸鹽詰之事

享保六年極
一主殺
同
一親殺
寛保二年極
一關所破
同
一重謀計
享保六年極
右之分死骸鹽詰之上御仕置此外ハ不及鹽詰事

寛保元酉年十二月牧野越中守石河土佐守水野對馬守伺之内
八十七(酉)重科人死骸鹽詰之事
極
一主殺
極

一親殺
極
一關所破
極
一重謀計
極
右之分死骸鹽詰之上御仕置此外ハ不及鹽詰事

朱書
是ハ元文三午年御附紙之趣ニ評議仕關所破重キ謀計も鹽詰之内江書加申候御書付ニハ此外不及鹽詰討首と有之候得共死體不及鹽詰候得ハ取捨申ニ付討首之文字相除申候

右寛保二戌年三月廿二日伺之通御下知本文極

元文三午年三月十四日彌此通定置退而被仰出等此儀ニ可記儀ハ書記可申候其節々其趣書付可差出旨評定所一座江被仰聞候帳面之内
享保六丑年御書付
八十七(元)(ウより)(ケまで)重科人死骸鹽詰之事
一主殺

一親殺

右之分ハ死骸鹽詰磔此外之科ハ向後死骸鹽詰磔ニ不及討首

一關所破

一重キ謀計

右之分も死骸鹽詰磔ニ不及討首併關所破重キ謀計之致方依其輕重鹽詰磔にも可被成候其節輕重之吟味可有之候

右之通可被相心得候以上

丑閏七月

右同文言（ウより クまで）

元文四未年三月差上型申五月十日緑色御書入御好之趣有之帳面之内

類例

天明五巳年九月十六日

主人并親江爲手負候者等死骸取計之儀ニ付御書付

評定所一座江

主人江爲手負候もの親江爲手負并打擲致候もの相果候節主親之疵平癒致し候共以來鹽詰之上死骸御仕置可被申付候

引書〇三奉行取計書

安永二巳年御渡

大坂町奉行伺

重科之もの死骸御仕置之儀ニ付評議

一浪人細川恰訴出候一件之内一止死骸ハ取捨ニ可被仰付哉之旨吟味書朱書ニ申上候

此儀都而吟味相決不申内病死仕候もの御仕置ハ附不申候得共此ものハ格別公儀江重キ儀を申出し候ものニ而御仕置無御座候而ハ一件之もの共吟味も居り不申趣意ニ相成候間御定書重科人死骸鹽詰之ケ條重キ謀計之名目ニ引當死骸御仕置被仰付可然品ニ奉存候別紙例ニ見合候而も品重御座候間死骸磔申付此もの儀播州西新町町人之忰ニ無相違處秀頼落子之末と奇怪成儀を申人を勸候段不屆至極ニ付磔ニ行ふ旨之捨札相建可申旨被仰渡可然哉奉存候

振七月

八十人 溜預ケ之事

享保七年
寛保二年極

一牢舍申付候もの最初より溜江遣間敷候乍然入牢之上重病之ものハ御仕置伺置候者ニ而も溜江遣可申事

寛保二年極

但逆罪之ものハ病氣ニ而も溜江遣申間敷事

寛保元酉年十二月牧野越中守石河土佐守水野對馬守伺之内

八十人 溜預ケ之事

極

一牢舍申付候もの最初より溜江遣間敷候乍然入牢之上重病之ものハ御仕置伺置候ものニ而も溜江遣可申事

極

但逆罪之ものハ病氣ニ而も溜江遣申間敷事

朱書

是ハ享保七寅年被仰渡候趣を以評議之上御仕置伺置候もの并逆罪之もの之儀書加申候

右寛保二戌年三月廿二日伺之通御下知本文極

元文三午年三月十四日彌此通定置追而被仰出等此帳ニ可記儀ハ書記可申候其節々其趣書付可差出旨評定所一座江被仰聞候帳面之内

享保七寅年被仰渡候

八十八 元 溜預ケ之事

牢舍申付候ものを最初より溜江遣間敷候乍然行倒もの抔之類ハ格別ニ候事

但牢舍申付候もの相煩溜江遣候儀ハ格別ニ候

享保七寅五月

元文四未年三月差上翌年五月十日緣色御書入御好之趣有之帳面之内

享保七寅年

溜預之事

牢舍申付候ものを最初より溜江遣間敷候乍然行倒もの抔之類ハ格別ニ候事

但牢舍申付候もの相煩溜江遣候儀ハ格別ニ候

明和八卯年十月十七日

類例

入牢溜預之者多無之樣可致旨御書付之事

松平右近將監殿一座江御渡

一入牢溜預之者手間取不申樣隨分手廻致し吟味相分リ候ハヽ出牢申付可成丈ケハ宿預ニ而吟味相分ケ入牢溜預多〳〵無之樣可被取計候

十月　三奉行江

引書〇三奉行取計書

刑律條例之部

下編 表紀三章 節目百三條

第二章　行刑條例

(八九)無宿片付之事

從前々之例

一可相渡筋有之者

享保九年極

一引取人無之者

從前々之例

但病人ハ快氣迄溜預ケ

引取人呼出可相渡

門前拂

享保九年極

一遠國もの行倒之類

從前々之例

但在所にて科有之又ハ欠落井村方親類久離いたし好身之もの無之におゐてハ門前拂

享保六年
元文三年極

一入墨敲にいたし候無宿遠國ものに候ハヽ

從前々之例

但右同斷

領主江科之樣子申聞態と領地江遣候にハ
不及旨申達

領主江可相渡

寛保元酉年十二月牧野越中守石河土佐守水野對馬守伺之内

八十九㊀無宿片付之事

極

一可相渡筋有之者

極

引取人呼出シ可相渡

溜預病氣快氣之上
萬石以上ハ領主江可相渡御料
井萬石以下ハ其所之親類呼出
可相渡

極

一引取人無之者

極

但病人ハ快氣迄溜預

朱書

右二ヶ條只今迄之取計を以相認但書ハ享保十巳年御書付之趣を以相認申候

溜預病氣快氣之上
萬石以上ハ領主江可相渡御料
井萬石以下ハ其所之親類呼出
可相渡

門前拂

極

一遠國もの行倒之類

極

但在所にて科有之又ハ欠落井村方親類久離いたし好身之もの無之にゐてハ門前拂

朱書

是ハ享保九辰年伺之上相極候趣を以相認申候

領主江科之樣子申聞態と領地江遣候ニハ
不及旨申達

領主江可相渡

極

一入墨敲にいたし候無宿遠國ものに候ハヽ

極

但右同斷

朱書

是ハ享保六丑年御書付を以相認領主江申渡候趣ハ元文三午年伺帳ニ御附紙之趣を以相認申候

右寛保二戌年三月廿二日伺之通御下知本文極

享保十巳年

八十九(元)倒死病人等之儀ニ付町觸

倒(ケフ)死病人水死其外異死迷子等有之節ハ所より訴出次第年頃并衣服等之品認自今芝口町河岸ニ七日之内札達置候條心當り有之ものハ右札場江罷越文言を見候而其親類由緒之ものにて病人死骸引取度と存候もの又ハ怪敷儀も有之吟味願度存候ものハ札達置候奉行所江可訴出候

右之趣町中可觸知者也

十月

享保九辰年六月十四日伺同廿二日御附札を以被仰聞

無宿引取等之事

▲○御(エタ)當地出所之もの無宿ニ罷成引取人無之時ハ門前拂ニ可申付事

懸紙

無宿并入墨敲ニ成候もの之事

御當地出所之もの無宿ニ罷成引取人無之又ハ入墨か敲ニ成候以後渡方も無之ものハ門前拂可申付候若其以後又々惡事仕候ハヽ伺之上死罪可申付候

御附札

伺之通ニ可被心得候

▲

●遠國もの御當地江參無宿ニ成行倒又ハ紛ものにて科無之類在所ニ而も科無之分ハ其領主江相渡在所江差越候共江戸ニ差置候共其段ハ無構旨申達相渡可申候又ハ右躰之ものも門前拂可申付候哉

×右奉伺候以上

辰六月

大岡越前守

諏訪美濃守

懸紙

×右之通伺之上相極候事

享保九辰六月

御附札

此儀ハ領主江相渡在所江罷越候共江戸ニ差置候共無
構旨申達相渡可申候門前拂ハ無用候

元文三午年三月十四日弼此通定置追而被仰出等此帳ニ可記儀ハ書記可申候其節々其趣書付可差出旨評定所一座江被仰聞候帳面之内

無宿幷奴女片付之部

享保六丑年

輕科之無宿領主江引渡之儀御書付

▲土井甲斐守領分
越前國織田村
無宿

長兵衛

此もの儀安部式部方ニ而入墨可被申付候其上ニ而甲斐守方江科之樣子を申聞相渡態と領地江差遣ニ
不及家來之召仕ニ成共道中往來之供ニ召連候共又荷物等之持人ニ成共可仕候當地ニ而も召仕候儀ハ
勝手次第ニ候其内欠落いたし候而も其通之事候此旨可相達候

右躰之者地頭江直ニ渡し遣候而ハ地頭之難儀ニも可罷成候間最前被仰出候趣ハ相止向後右之通可被致
候

丑七月

一總而御當地無宿之もの領主江渡候節在所追拂か親類勘當領主より構有之もの又ハ欠落いたし候もの
之由斷有之候共領主江相渡可申事
但御代官所幷万石以下地頭江難渡儀有之候分ハ其在所之親類呼出相渡可申候若親類無之候ハヽ拂
遣可申候

無宿幷入墨敲ニ成候もの之事

御當地出所之もの無宿ニ罷成引取入無之又ハ入墨か敲ニ成候以後渡方も無之ものハ門前拂可申付候
若其以後又々惡事仕候ハヽ伺之上死罪可申付候

一遠國もの御當地江參無宿ニ成行倒又ハ紛ものにて科無之分ハ其領主江相渡在所江差越候共江戸ニ差
置候共其段ハ無構旨申達相渡可申候

右之通伺之上相極候事

享保九辰六月

元文四未年三月差上型申五月十日諸色御書入御好之趣有之帳面之内

享保六丑年

輕科之無宿領主江引渡之儀御書付

土井甲斐守領分
越前國織田村
無宿　長兵衛

▲ 此者儀安部式部方ニ而入墨可被申付候其上ニ而甲斐守方江科之樣子を申聞相渡態と領地江差遣ニハ不及家來之召仕ニ成共道中往來之供ニ召連候共又ハ荷物等之持人ニ成共可仕候當地にても召仕候儀ハ勝手次第ニ候其内欠落いたし候而も其通之事候此旨可被達候

右躰之もの地頭江直ニ渡遣候而ハ地頭之難儀ニも可罷成候間最前被仰出候趣ハ相止向後右之通可被致候

丑七月

懸紙

▲ 此箇條御好ニ付相除無宿片付之ヶ條江書加申候

● 一惣而御當地無宿之もの領主江渡候節在所追拂歟親類勘當領主より搆有之もの又ハ欠落いたし候ものの之由斷有之候共領主江相渡可申事

但御代官所并万石以下地頭江難渡儀有之候分ハ其在所之親類呼出相渡可申候若親類無之候ハヽ拂遣可申候

懸紙

入墨敲ニ成候もの再科御仕置之事

● 一入墨歟敲ニ成候もの渡方も無之類ハ門前拂ニ可申付候其以後惡事仕候ハヽ伺之上死罪可申付候

無宿并入墨敲ニ成候もの之事

御當地出所之もの無宿に罷成引取人無之又ハ入墨歟敲ニ成候以後渡方も無之ものハ門前拂可申付候若其以後又々惡事仕候ハヽ伺之上死罪可申付候

◆ 一遠國もの御當地江參無宿ニ成行倒又ハ紛ものにて科無之類在所ニ而も科無之分ハ其領主江相渡在所江差越候共江戸に差置候共其段ハ無御搆旨申達相渡可申候

右之通伺之上相極候事

懸紙

無宿片付之事

一御當地出生之無宿引取人於無之ハ門前拂可申付候病人ニ候ハヽ快氣まて溜預可申付候

一遠國もの御當地江參無宿ニ成行倒又ハ紛ものにて科無之類在所ニ而も科無之分ハ其領主江相渡在所江差越候共江戸ニ差置候共其段ハ無構旨申達相渡可申候

享保九辰年伺書

所拂領主構勘當等之無宿片付之事

在所有之もの在所追拂歟親類勘當領主より構有之もの又ハ欠落もの御當地江參無宿ニ罷成領主江相渡候節右斷有之候共其構なく相渡可申哉奉伺候以上

辰五月

書面之もの領主江相渡候節斷有之候ハヽ其趣を以至其節相伺可申候

類例

安永七戌年

無罪之無宿共取計之儀ニ付町奉行江問合并請證文之事

桑原能登守

牧野大隅守殿

此度無罪之無宿四五拾人佐州江遣し水替人足ニ遣ひ候由之御書付當月三日右京大夫殿より御渡有之候處入墨敲門前拂申付候無宿之引合ニ無罪之無宿有之候右類ハ如何取計可申候哉被仰聞可被下候以上

戌四月

御書面入墨敲之者ハ勿論引合ニ而無罪之無宿ハ落着之節早々身分片付可申候此上無宿ニ而致徘徊候ハヽ召捕佐州江遣候段被仰渡追拂被遣候方と存候

戌五月　牧野大隅守

差上申一札之事

私儀先達而無宿半藏万藏一同下總國佐原村之もの共ニ被捕御差出ニ相成一同入牢被仰付再應御吟味之上万藏ハ御仕置被仰付半藏ハ御仕置可被仰付候處病死いたし私儀ハ不埒之筋も無御座候ニ付御門前拂被仰付候間早々身分片付可申此上無宿ニ而徘徊いたし候ハヽ被召捕佐州江可被差遣段被仰渡奉畏候若

相背候ハヽ御科可被仰付候仍御請證文差上申處如件

安永七戌年五月廿六日　　無宿　源七

御奉行所

引書〇前々張紙

天明八申年十一月廿三日

無宿者佐州水替人足ニ可遣事

松平越中守殿御渡

手元ニ有之品并途中之小盗等致し其外盗之科ニ而敲又ハ入墨之上敲或ハ入墨ニ申付候もの引渡可遣方無之無宿ハ門前拂ニ成候處御仕置相濟候上ハ則無罪之無宿ニ候間門前拂ニ不致直ニ溜預ニ申付置佐州江水替人足ニ差遣し可申候

右之通盗之科ニ而御仕置濟門前拂ニ可致無宿向後佐州江遣旨申聞せ溜預ニ致し置追々佐州江差越候樣可被致候尤重而相達儀も可有之候間夫迄ハ先右之通可被取計候

申十一月　　三奉行江

寛政二戌年二月廿八日

無宿者人足寄場江可遣事（人足寄場ノ事第一卷ノ末ニ記載アリ参觀）

松平越前守殿御渡

無宿者召捕候節惡事有之入墨敲等御仕置相濟候ハ勿論吟味之上惡事無之もの以來都而加役方人足寄場江可遣事

二月　　三奉行江

以上引書〇三奉行取計書

追加

（九十）不緣之妻を理不盡に奪取候もの御仕置之事

寛保四年極

一賀養子不孝不埒有之差戻候以後外之養子いたし娘に嫁合候節先夫荷擔人を催參娘を奪取候におゐてハ

當人　死罪

荷擔人之内頭取　田畑家財取上　所拂

但人にも疵付不申其上養父方之者共詫候ハヽ當人重キ追放

其外 過料

二八六

寛保三亥年九月大岡越前守石河土佐守水野對馬守伺之内

九十四 不縁之妻を理不盡に奪取候もの御仕置之事

極

一 智養子不孝不埒有之差戻候以後外之養子いたし娘ニ嫁合候節先夫荷擔人を催參娘を奪取候におゐてハ

當人 ■中追放

荷擔人之内 頭取 田畑家財取上 所拂

其外 過料

懸紙

極 ■當人 死罪

朱書

是ハ享保十六亥年十一月和州宇智郡南阿田村金右衛門悖與右衛門同郡八田村兵助智養子に成兵助娘小けんと嫁合候處養父江不孝ニ付離縁いたし同郡佐名傳村久右衛門を養子いたし小けんと爲致婚禮候處其夜與右衛門并同村之もの申合小けん奪取不届に付與右衛門遠島與右衛門親金右衛門戸〆荷擔人過料

京都所司代江奈良奉行より伺之上御仕置申付候例

懸紙

○ 是ハ奈良奉行より京都所司代江伺之上御仕置相濟候例に准相認申候

× ○

懸紙

極 但人にも疵付不申其上養父方之もの共詫候ハヽ當人重キ追放

× 朱書

是ハ御別紙御書付之趣猶又評議仕候處御尤ニ奉存候ニ付懸紙之通相改申候

二八七

右寛保四子年二月十七日伺之通御下知本文極

寛保三亥年十月御書付之内

不縁之妻を理不盡に奪取候もの御仕置之事　當人　中追放

一智養子不孝不埒有之差戻候以後外之致養子娘に嫁合候節先夫荷擔人を催參娘を奪取候におゐてハ　荷擔人之内頭取　田畑家財取上　其外　所拂

是ハ當人ハ可爲死罪候荷擔人以下ハ此通可然候

但人にも疵付不申其上養父方之もの共詫候ハヽ重キ追放歟　過料

水野十兵衛知行
和州宇智郡南阿田村

二八八

九十元享保十六亥年十一月御仕置申渡

百姓金右衛門倅　與右衛門

右與右衛門儀和州宇智郡八田村百姓兵助聟養子ニ仕兵助娘小けんと妻合候得共養祖父養父江不孝ニ有之候ニ付與右衛門儀離縁仕當七月實父金右衛門方江差戻當三日同國佐名傳村百姓杢兵衛弟久右衛門を聟養子ニ呼取右小けんと爲致婚禮候然處同夜兵助留守之内江與右衛門幷南阿田村之もの共罷越小けんを奪歸其上兵助方ニ居合罷在候八田村庄屋三郎兵衛を相痛大切ニ相見候旨兵助訴出候ニ付與右衛門召出吟味仕候處養父兵助方より離縁仕差戻候得共小けんエ離別之書付不相渡候故縁切不申と心得違村役人共相頼小けん奪取申披無御座旨申之候

遠島　○

同人知行
同村百姓

三十郎

右三十郎吟味仕候處當三日與右衛門儀兵助方江參兵助娘小けん相渡候樣申及騒動候旨八田村より申來候間鎮ニ罷越候樣南阿田村庄屋源八三十郎江申付候故兵助方江參候處與右衛門始村方之もの共參居候故明日迄小けん三十郎江預ケ候ハヽ埒明可申旨申聞候得共八田村庄屋三郎兵衛聞入不申候故小けんを

二八九

奪歸候此節庄屋三郎兵衛留メニ立候故三郎兵衛裙を三十郎捕引居候處三十郎儀も不斗眩暈發正氣無之
其後三郎兵衛絶入仕候子細不存由申爭ひ候

家財闕所所拂

無構差免候

模本主馬之助知行
同國同郡八田村
年寄次郎兵衛母
小すな

右小すな吟味仕候處當三日朝より兵助方江參居候處南阿田村與右衛門并同村之もの共罷越小けん相渡
候樣ニ申爭ひ候小けん儀與右衛門妻ニ有之候ハヽ連歸候樣ニ與右衛門江三十郎差圖仕候付與右衛門儀
小けんを奪出候處八田村庄屋三郎兵衛留メニ立上リ可申と仕候處三十郎儀三郎兵衛胸を押へ仰向ニ倒
爲相働不申押居候內南阿田村之もの共小けんを奪出候通りかけに三郎兵衛足なと踏候小すな側ニ罷在
見屆候旨申之候

水野十兵衛知行
同國同郡南阿田村

御下知御附札之寫ハ無之候

傳八

清次郎
源十郎
八郎兵衛
勘平
九平次
庄兵衛

右之もの共吟味仕候處同村金右衛門忰與右衛門ニ被相賴當三日與右衛門始右七人兵助方江罷越小けん
奪取候段相違無之候得共庄屋三郎兵衛を相痛候儀ハ曾而無御座候由申之候

同人知行
同國同郡同村
百姓與右衛門親
金右衛門

戸〆申付候

右金右衛門吟味仕候處當七月忰與右衛門儀養父兵助方より離緣仕差戻候段相違無御座候當三日兵助方
江佐名傳村杢兵衛弟久右衛門聟養子ニ參リ小けんと爲致婚禮候由ニ候間小けん奪歸可申旨與右衛門申
に付無用之段差留候得共聞入不申候然共共小けん江與右衛門より離緣之書付不遣內ハ緣切不申候樣心得

違差留不申及騒動申披無之旨申之候

預ヶ差免申候　　久右衛門

右久右衛門吟味仕候處杢兵衛弟ニ而兵助聟養子ニ罷成當月三日引越祝儀等相濟候同夜五ツ時分南阿田村之もの共入込及騒動候故奥より立出候内兵助娘小けんを奪三郎兵衛を横ニ倒シ三十郎上ニ伏シ重り居候故引放候得共三郎兵衛ハ絶入仕罷在三十郎も表座敷まて走リ出目を廻し候躰ニ而倒候を南阿田村之もの共連歸候右之通遲ク出合候故三郎兵衛を如何樣ニ痛候哉又ハ込入候もの共踏候哉之段委不存候旨申候付兄杢兵衛江預ヶ置申候

根來主馬之助知行
同國同郡八田村
兵助養子

預ヶ差免申候　　小けん

右小けん吟味仕候處夫與右衛門と離縁之儀ハ仲人三郎兵衛立合離別仕候儀相違無御座候當三日夜與右衛門始大勢入込候而小けんを奪歸候節三四人も相懸引提出候故三郎兵衛を痛候樣子得と見屆不申候三郎兵衛叫ひ候聲ハ承候旨申之候付小けん儀親兵助江預ヶ置申候

同人知行
同國同郡同村
百姓兵助娘

追加

九十一　書狀切解金子遣ひ捨候飛脚御仕置之事

延享元年極

一金子入之書狀請取道中ニ而切解遣捨候飛脚　　金高多少不依引廻之上　死罪

延享元子年三月大岡越前守石河土佐守水野對馬守伺之内

九十一　書狀切解金子遣ひ捨候飛脚御仕置之事

極

一金子入之書狀請取道中ニ而切解遣ひ捨候飛脚　　金高不依多少引廻之上　死罪

朱書

是は享保三戌年十二月駿府兩替町三右衛門儀江戸飛脚宿駿河屋八太夫方より駿府御番衆留守より金子入書狀并駿府町人方江金子壹兩入書狀右三右衛門請取罷登候處道中ニ而痛所出來歩行難成路金差詰候ニ付町人方江之書狀切解金子取出し遣ひ早速可相辨處金子不調及延引候御番衆より之書狀は金子入ニ而候哉日數遲々いたし候ニ付道中取落候哉慥無之旨申候御番衆紛失之書狀も爲差用事も無之金子貳兩之儀ニ候處右金子は辨濟いたし候得共仕形不屆ニ付駿河遠江武藏相摸伊豆甲斐安房上總下總常陸拾ヶ國追放

駿府町奉行より老中江何之上御下知有之例

右同年四月八日伺之通御下知本文極ル

九十一 元享保四亥年二月十二日御仕置申渡

駿府鞠場町五丁目

三右衛門

右三右衛門儀享保三戌年十二月八日江戸飛脚宿駿河屋八太夫方より當所在番松平駿河守組御番衆留守より之金子入書狀并當所町人共方江金子壹兩入書狀相渡右三右衛門請取候而罷登候處右書狀共先々江相屆候哉之旨駿河屋八太夫方より當所飛脚宿之もの江申越候ニ付飛脚宿之者共吟味いたし候處右三右衛門申候は道中にて痛所出來歩行難仕路金に差詰リ候ニ付無是非町人方江之書狀切解金子取出遣ひ申候早速其段相弁可申處輕キもの故金ナ不相調候ニ付及延引候御番衆より之書狀は金子入にて候哉痛所有之日數遲々仕候故差急候間道中ニ而取落候哉覺無之旨申之及出訴候故三右衛門召呼吟味之上牢舍申付置段々遂吟味候内御番衆紛失之書狀も爲差用書ニも無之金子貳兩之儀にて候處無滯致弁濟候旨番頭松平駿河守方より申越候ニ付吟味之上追放申付候

三右衛門追放國々搆覺

駿河　遠江　武藏　相模　伊豆　甲斐　安房　上總　下總　常陸

比罪例

安永二巳年御渡

駿府町奉行伺

越中無宿長七狀箱切解候一件

越中無宿

長七

右之もの儀時限飛脚狀箱途中ニ而繼受屆賃金一分錢五百文請取候處右狀箱之内金子有之候はゝ可盗と存狀箱三ツ共切解候處金子無之候ニ付狀箱書狀ともに三島宿御殿川江流捨候段及白狀盗取候品は無之候得共可盗取心底ニ而狀箱切解候儀不屆至極ニ付死罪

此儀御定書ニ金子入之書狀請取道中ニ而切解遣捨候飛脚金高不依多少引廻之上死罪と有之此ものハ狀箱之内金子有之候ハゝ可盗取と存狀箱三ツ共切解候間心底ハ同樣ニ可有御座候哉 既源七より請取候飛脚賃ハ遣捨候間右御定江引當引廻之上死罪

評議之通濟

駿府傳馬町家持

飛脚受負人

松屋

惣兵衛

右之者儀當閏三月廿一日江戸表江三拾時限仕立飛脚二ヶ所より追々請負候處翌日差立候拾八時限飛脚序ニ相屆候得共六時程も早ク着いたし候事故不苦と存狀箱溜置定之賃錢ハ銘々より受取先々江斷も不申達一飛脚ニ而差立過分之賃錢受取候仕方不屆ニ付飛脚請負取上五貫文過料

此儀飛脚請負渡世之者拾八時限ニ候共幾口も請取時限不致延引樣相屆候儀ハ可有之筋ニ而此もの受取候三ヶ所之狀箱相渡候飛脚金六途中ニ而相煩源七江相渡し源七も途中にて怪我いたし無宿長七江相渡し右狀箱長七切解候儀此者ハ心付も致間敷筋ニ御座候間飛脚請負取上候ニハ及申間敷哉差當例も相見不申候得共此者請負候狀箱途中ニ而違變有之候儀御座候間三ヶ所より受取候飛脚賃錢夫々江爲相返損金可申付

先達而評議仕申上候永井采女相伺候越中無宿長七狀箱切解候一件之内駿府傳馬町家持飛脚請負人松屋惣兵衛儀當三月廿一日江戸表江三拾時限仕立飛脚二ヶ所より請負候處翌日差立候拾八時限飛脚序相屆候得共六時程も早ク着いたし候事故不苦と存狀箱留置定リ賃錢ハ銘々より請取先々江斷も不申達一飛脚ニ差立過分之賃錢受取候仕方不屆ニ付飛脚請負取上五貫文過料と采女相伺候處三拾時限ニ請負候狀箱翌日迄留置拾八時限之飛脚と一所ニ差立候得ハ差支候筋ハ無之飛脚之者於途中之不屆之儀ハ惣兵衛心附も有之間敷ニ付受負取上候ニハ不及三ヶ所より受取候飛脚賃錢夫々江爲相返損金可申付旨被仰渡

可然哉之旨評議仕申上候處左候而ハ先々斷もなく受負之飛脚宅ニ差置候段不埒ニ相聞候尤前段之通刻限差支ハ不相聞候得共右躰等閑ニ相心得取計候故於途中無宿ニ狀箱渡遣し異變も有之候間右等閑之處飛脚賃錢損金計ニ而ハ不相當ニハ無之哉此所猶又評議仕可申上旨被仰聞候

此儀先達而評議仕申上候通三拾時限ニ受負候狀箱翌日迄溜置拾八時限之飛脚と一所ニ差立候得ハ刻限差支候筋ハ無之飛脚之者於途中不屆之儀ハ惣兵衛心付も有之間敷ニ付請負取放ニハ及申間敷哉ニ候得共今般御尋之趣を以猶又評議仕候處請負之飛脚狀箱宅ニ溜置先々江斷も不致段ハ行屆不申何れにも途中ニたゐて異變有之候上ハ不念ニ御座候間急度叱り置候上三ヶ所より受取候飛脚賃錢夫々江爲相返損金申付以來念入候樣可申渡段被仰渡候方相當可仕哉と奉存候

再評議之通濟

駿府横内町
家主庄助店

金六

右之者儀油紙包狀箱松屋惣兵衛より江戸駿河屋八太夫所江拾八時限屆飛脚受負罷越候處途中ニ而病氣ニ付飛脚難相成由比宿ニ而源七兼而知人にて慥成者之由申候得共問屋江も不斷相對を以繼替候段不念之至ニ付急度叱リ

此儀途中由比宿ニ而病氣附兼而知人源七を頼狀箱相渡遣し候儀ハ無餘儀筋ニ候得共由比宿問屋江不相屆段不念迄ニ御座候間差當リ例ハ相見不申候得共伺之通急度叱リ

評議之通濟

柴村藏三郎御代官所
駿州廣原郡由比宿
家持

源七

右之者儀油紙包狀箱江戸駿河屋八太夫所江拾八時限屆飛脚由比宿ニ而相對を以請負候處途中ニ而怪我いたし飛脚難相成吉原宿おゐて問屋江も不斷相對を以無宿長七江繼替候段不埒之至ニ付三十日手鎖

此儀途中ニ而怪我いたし歩行難成ニ付吉原宿ニ而問屋江も不相屆長七江相渡候段ハ前書金六ニ似寄候得共長七ハ無宿之儀ニ付金六よりハ格別品不宜御座候間差當リ例ハ相見不申候得共所拂ニ而相當可仕處盗人長七を此者召捕候間是以例ハ不相見候得共右召捕候故を以所拂致有免急度叱リ以來入念候樣可申渡

評議之通濟

引書○御仕置例類集

追加

九十二 質物出入取捌之事

從前々之例

一八ヶ月内之質物ハ請戻可申付八ヶ月過候ハヽ流に可申付事

但置主質屋相對ニ而差置候ハ格別之事

延享元年極

一利足相濟置候質物可請戻旨申候得共賣拂候由ニ而其品不渡

質屋

但質物賣先不相知候ハヽ元金一倍之積リ代金爲相渡過料可申付事

從前々之例

一壹人兩判之質物を取置吟味ニ可成品之由承質物相返シ預金

證文ニ仕直其上質帳不埒ニ致候質屋

質物賃請戻

過料

家財取上

江戸拂

延享元子年三月大岡越前守石河土佐守水野對馬守伺之内

九十二 質物出入取捌之事

極

一八ヶ月内之質物ハ請戻可申付八ヶ月過候ハヽ流ニ可申付事

極

但置主質屋相對ニ而差置候ハ格別之事

朱書

是ハ只今迄之取計を以相認申候

質物爲請戻

過料

極

一利足相濟置候質物可請戻旨申候得共賣拂候由ニ而其品不渡質屋

極

但質物賣先不相知候ハヽ元金一倍之積リ代金爲相渡過料可申付事

朱書

是ハ元文二巳年正月下野國塩田村幸助所持之衣類品々去卯三月同國小生川村新五右衛門方江質物ニ入元金五兩貳分借請去辰五月爲利上錢六貫文相渡當時可請戻旨申候處賣拂候由ニ而不爲請戻不埒ニ付買戻可爲請返候若賣先不相知候ハヽ都而質物ハ元直段より過半下直ニ取候通例ニ候間元金一倍之積爲質物代置主江相渡右之内ニ而元金可引取旨質屋新五右衛門ニ申渡

懸紙

是ハ此度評議之上相認申候

▲

右同年四月八日伺之通御下知本文極

延享元子年八月大岡越前守鳴長門守水野對馬守伺之内

質物出入取捌之事

極

一壹人兩判之質物を取置吟味ニ可成品之由承質物相返シ預金證文ニ仕直其上質帳不埒ニいたし候質屋

家財取上

江戸拂

朱書

是ハ寛保元酉十一月船松町一丁目伊兵衛儀松平遠江守足輕小堀清太夫任賴ニ出所も不糺清太夫兩判渡候故證人利兵衛江ハ不遂對談も質物取置候處吟味ニ可成品之由及承質物相返し預ヶ證文ニ仕直其上質帳麁末ニ記し置紛失物町觸之節引合吟味も不成樣ニいたし置不届ニ付家財取上江戸拂可申付旨十一月廿二日本多中務大輔殿被仰渡候處伊兵衛儀病氣ニ而申渡延し置候處同廿五日病死

懸紙

○

是ハ唯今迄之取計を以相認申候

右同年八月十七日伺之通御下知本文極

九十二 元文二年巳正月廿五日

一下野國窪田村幸助外二人と同國小生川村新五右衛門方江質物ニ入元金五兩貳分借請去辰五月爲利相手方所持之衣類品々去卯閏三月右質屋新五右衛門方江質物ニ入元金五兩貳分借請去辰五月爲利相手方所持之衣類品々去卯閏三月右質屋新五右衛門方江質物ニ入元金五兩貳分借請去辰五月爲利上錢六貫文相渡當時可請戻旨申處賣拂候由ニ而不請戻旨及出入吟味之處利上錢請取置賣拂候段不埒付質物買戻可爲請返候若賣先不相知候ハヽ都而質物ハ元直段より過半下直ニ取置候通例ニ候條元金一倍之積拾壹兩爲質物代置主江相渡右之内ニ而元金可引取旨質屋新五右衛門ニ申渡

寛保元年 酉八月廿四日入牢

船松町一丁目 久右衛門店 質屋 伊兵衛

右伊兵衛儀松平遠江守足輕小堀清太夫賴候ニ任セ出所も不承糺清太夫より兩判渡候故證人利兵衛と申もの江ハ不逐對談も質物取置候處吟味ニ可成品之由及承清太夫方江質物相返し質代金預ケ金證文に致し取置其上此度遂吟味候處質帳麁末に記し置紛失物町觸申付候節引合セ吟味も不仕樣ニいたし置旁不屆ニ付家財取上江戸拂

天明元 丑年

裁許例

上州桐生新町八之允下代十兵衛相手同町宗三郎質物出入吟味仕候趣申上候書付 按ニ此裁許ハ本章條文ニハ配シ難シ今マ的例ヲ得サルヲ以テ姑ク錄スルノミ

書面伺之通濟口承屆宗三郎儀ハ急度叱リ置候樣可仕旨被仰渡奉畏候

閏五月九日 山村信濃守

當三月十四日御渡被遊候上州桐生新町八之允下代十兵衛相手同町宗三郎質物出入吟味仕候趣左ニ申上候

酒井石見守領分 上州山田郡桐生新町

訴訟方　　太郎兵衛地借
　　八之允店下代
十兵衛　丑四拾六歳

相手方　　同人領分
　　同町
宗三郎　丑四拾歳　百姓

一質物出入

右十兵衛吟味仕候處主人八之允ハ伊勢神領勢州渡會郡相可村住宅ニ而店を出し下代差置質渡世いたし桐生新町江ハ太郎兵衛地内を借店を出し此もの引請取計罷在候然處去子十一月晦日同町三郎右衛門證人にて相手宗三郎所持之男小袖三ッとろめん袷羽織壹ッ都合四品質ニ取金三兩貸遣し同十二月廿八日又候木綿夜着四ッ同蒲團貳ッ都合六品質ニ取錢拾五貫五百文貸遣候處當正月朔日右質物之内夜着壹ッ請戻度由にて宗三郎方ニ罷在候七之助を以申越候ニ付錢五貫文請取夜着壹ッ相渡候處同日又候夜着壹ッ受戻度由七之助江七郎右衛門と申ものを着添宗三郎より申越候間錢三百八拾文請取猶又夜着壹ッ相渡右兩度之代錢都合五貫三百八拾文を元利之内江請取殘四品之元代錢壹貫五拾文之積通帳江附替遣し其後同廿四日右殘四品不殘請戻しニ差越候間元利請取差遣し候處同月廿七日宗三郎罷越最初之質物不殘請戻度旨申聞候間四品とも相渡扣帳面改候得ハ二度目之質物六品之代錢取紛勘定差引消落し置候を宗三郎一覽いたし勘定不相分不埒成いたし方ニ付最初之質物代金難渡旨宗三郎申之右四品持歸押取いたし候段難心得旨申之候

一宗三郎吟味仕候處去子十一月晦日同町三郎右衛門證人ニ而八之允下代十兵衛江引合衣類四品金三兩之質ニ入同十二月廿八日又候木綿夜着四ッ同蒲團貳ッ都合六品錢拾五貫五百文之質ニ入候迄之始末ハ十兵衛申口之通無相違然處右之内夜着入用ニ付當正月朔日村名不存當分雇置候七之助を使ニ而請戻しニ遣候處夜着壹ッ差越不足ニ付同日又候七之助并同郡新宿村より參合罷在候七右衛門兩人差遣し猶又夜着壹ッ請戻右之分質代差引勘定之上殘夜着貳ッ蒲團貳ッ都合四品ニ而元錢壹貫五拾文ニ通帳爲附替置同月廿四日殘四品元利共相濟請戻同廿七日最初之質物四品も請戻ニ罷越右品請取通帳と十兵衛方扣帳面突合候處品數代錢不致符合難心得間得と相糺勘定不分内ハ衣類四品之代金三兩ハ難渡旨十兵衛江相斷衣類四品ハ持歸其段十兵衛主人八之允地主江斷置候處代金不相渡質物押取いたし候由十兵衛申立及出訴候段却而難心得且質物請戻候節差遣し候ハ七右衛門ニ而七郎右衛門と申もの差遣候儀も無之由申之候

右之通申爭ひ候ニ付再應吟味仕候内取扱人立入雙方得と相糺候趣最初之質物四品請戻候上代金返濟致

延引候段宗三郎心得違ニ付相詫此度元金十兵衛江相渡二度目之質物六品ハ元利相渡請戻候を十兵衛扣帳消落し候段不念ニ付宗三郎江相詫此度帳面を消前書三兩之利分ハ十兵衛方ニ而不足いたし且右質物請戻ニ遣候七之助ニ差添遣候ものハ其砌參合罷在候同郡新宿村七右衛門ニ候處七郎右衛門と申立候ハ十兵衛承違ニ候段も相分リ互ニ無申分熟談いたし候間出入内濟いたし度旨雙方并八之允地主太郎兵衛扱人共一同相願申候

一宗三郎儀七之助を雇置候始末吟味仕候處七之助ハ越後國出生ニ而日雇稼ニ參候由ニ付村名等も不相糺四五日之内雇置候積リニ而當分之儀故所役人江も不相屆去子十二月廿七日雇置當正月二日差返候儀之旨申之候ニ付越後國出生之由申候迚村名等も不存七之助を所役人江も不相屆當分雇置候段不埒之旨吟味請可申立樣無之由申之候

右吟味仕候趣書面之通ニ御座候濟口差支候儀も無御座候間承屆且宗三郎儀越後國出生之由申候迚村名等も不存七之助を所役人江も不相屆當分雇置候段不埒ニ付急度叱り置候樣可仕候哉奉伺候 御渡被遊候書付壹通返上仕候以上

丑　月

引書○内寄合留帳

追加

九十三 煩候旅人を宿送りニ致候咎之事

旅籠屋　問屋　年寄

所　拂　役儀取上　重キ過料

但脇道ニ而問屋無之ニ付ハ名主役儀取上

延享元子年三月大岡越前守石河土佐守水野對馬守伺之内

九十四 煩候旅人を宿送りニ致候咎之事

旅籠屋　問屋　年寄

所　拂　役儀取上　重キ過料

從前々之例

一煩候旅人療養も不加其上宿次ニ送り出し候にてハ

極

一煩候旅人療養も不加其上宿次ニ送り出し候にてハ

極

但脇道ニ而問屋無之にてハ名主役儀取上

朱書

○ 是ハ寛保二戌年十一月南部修理大夫城下下長町作平と申もの江戸より在所江參候節奥州道中氏家宿旅籠屋藤左衛門方ニ泊リ候處煩出三日滯留いたし候得共醫師江も不爲見其上本服も不致候ニ付逗留いたし度由申候得共送遣喜連川宿町はつれニ臥居候を彼宿より訴出吟味之上無紛不届ニ付藤左衛門儀所拂且問屋年寄儀右作平藤左衛門方ニ逗留いたし候を一向不存候段日々之泊改も不致候故之儀ニ而殊ニ作平問屋場江參病氣ニ付宿借度由申候得ハ向之宿江參候樣ニ居合候もの之内にて致業國候由早速役人江も申聞養生いたし可遣處畢竟平日申合麁末之儀ニ而役儀勤候甲斐も無之不届ニ付問屋六右衛門役儀取放年寄五右衛門過料五貫文

懸紙

○ 是ハ唯今迄之取計を以相認申候

右同年四月八日伺之通御下知本文極

九十三(元)

寛保二戌年十一月六日申渡

一奥州道中氏家宿ニ而旅人煩候を送リ遣候儀吟味一件

南部修理大夫城下長町作平江戸より在所江參候由にて當九月十七日爲泊候得者煩出十九日迄爲泊廿日ニも逗留致度由申候を本服も不致ものを送リ遣し喜連川宿はつれニ臥居候を彼宿より訴出吟味之上病人を三日爲致逗留候儀宿役人江も不相屆醫師も不相懸不屆ニ付

奥州道中
氏家宿
旅籠屋
藤左衛門

所拂

右作平藤左衛門方ニ爲致逗留候を一向不存前々より泊改不致由申當夏中仙臺旅人七助と申もの病人ニ候を當宿より送遣段及露顯宿々咎申付候上ハ前々泊改不致候共日々之泊改申付急度可相守所無其儀殊ニ作平問屋場江參病氣ニ付宿借度由申候得者向之宿江參候樣ニ居合候もの之内ニ而致差圖由作平申之上者早速役人江も申聞養生いたし可遣處畢竟平日申合麁末之儀ニ而役儀勤候甲斐不屆ニ付急度可咎處宥免を以

役儀取放

問屋
六右衛門
年寄
五右衛門

五右衛門

類例

明和四亥年十二月

病氣旅人村繼之儀幷行倒者取計之儀御觸書

東海道中山道甲州道中日光道中奥州道中右宿々旅籠屋者勿論脇往還其外之村々ニ而宿を取候旅人煩候ハヽ其所之役人立會醫師を懸療養を加置其旨御料者御代官私領者領主地頭江相屆五海道者道中奉行江も宿送を以致注進右旅人早速快氣無之趣ニ候ハヽ其もの在所之村役人等江申遣親類呼寄對談之上可任存寄若療養も不加宿繼村繼抔ニ而送リ出候儀顯ルにおゐてハ五海道者旅籠屋問屋年寄其餘之村々者宿いたし候者村役人共江急度御仕置可申付候

一右之外通リ懸リ相煩候旅人も其所之役人立會醫師を懸療養を加勿論懷中ニ往來手形有之候哉相糺御料者御代官私領者領主地頭江致注進右病人早速快氣無之趣ニ而在所江歸リ度候得共路用貯無之間送リ屆呉候樣申候ハヽ書付取之其最寄支配之役所有之候ハヽ訴之差圖を請又ハ支配之役所無之場所ハ其旨致注進置所役人共とくと遂相談右病人賴之趣認相添次村江駕籠ニ而送リ夫より次之村々ニ而も病人之樣子次第服藥爲致同樣取計ひ在所江可返遣

但旅人申立候在所江送リ屆萬一其在所之ものニ無之候ハヽ不取逃樣其所ニ留置其筋江可訴出

一途中ニ而相果候ハヽ次村江不繼送支配之役所江致注進其所ニ而假埋ニいたし置其者之在所親類村役人江懸合候上其所ニ葬候共望ニ任すへし若道心者廻國之類抔懷中ニ何國ニ而相果候共其所江葬候樣本寺觸頭其在所之寺院或ハ親類等慥成書付有之候ハヽ支配之役所訴之在所江相屆ニ不及其所江可取置勿論最初より行倒相果罷在候節之取計ひも同樣之事

右之通相心得萬一療養も不加或ハ内々ニ而繼送ニおゐてハ是又急度御仕置可申付候

一都而右類之諸入用者享保二十卯年五海道江相觸候通病人又者在所より差出候ハヽ格別無左候ハヽ宿割村割ニ致すへし

右之趣可相守者也

十二月

右之通相觸候間可被得其意候

右之通御書付出候間寫遣之候

十二月廿六日

伊備前守
小日向守
牧大隅守

文化七午年四月

継送候病人を継戻し候村々咎之事

矢橋松次郎伺水野若狭守下知

書面駒飼宿役人共儀勝沼宿より送出候病人ハ支配役所江申立差圖之上継出候趣書付有之上ハ次村江可継送を往來手形幷支配役所より之添書付無之上ハ難受取と心得違致差戻候始末不埒ニ付急度叱置勝沼宿役人共儀も宿内ニ止宿致し候旅人病氣ニ付支配役所江申立宿村送ニ継出候ハヽ差圖之趣等委細ニ致添書次村江可相渡を認方不行屆故駒飼宿より継戻候始末ニ相成候段不埒ニ付叱鶴瀬宿役人幷初鹿野村枝郷横吹百姓代又兵衛母はつ儀宿村送之病人駒飼宿ニ而不受取候ハヽ得と子細可相糺を夫成継戻し又兵衛兼而申付方不行屆故右始末ニ相成候段一同不埒ニ付叱黒野田宿役人共儀も病人継立方之儀ニ而先達而駒飼宿より問合候節得と糺も不致心得違之趣及挨拶候故既ニ今般駒飼宿ニ而手違之致取計候始末ニ相成候段不念ニ付急度叱置一同證文取之可被差出候以上

文政七申年九月

女病人継出方心得之事

松平丹波守御預所役人伺曾我豊後守下知

書面女之壹人旅人ハ先ハ有之間敷儀ニ而稀之事ニ候間若右躰之女病人有之継送候儀申渡候途中不取締之儀無之ため村役人又ハ村役人江も差継候年倍之もの附添次之村役人江引渡可然儀ニ付其通取計尤右之趣送出之村役人より道筋村宛之書付をも相添引渡其餘ハ明和四亥年御觸之通相心得且場所ニ寄道筋ニ關所有之分ハたとへ其もの之國所之寺院又ハ村役人等より所々御關所宛往來手形差出候を所持いたし居候類有之候共右ハ其もの之支配又ハ領主地頭江懸合其筋之御關所通手形を以相通候筋ニ有之候且但書被申聞候宿を取候旅人病氣之節取計方ハ是又前書御觸之趣ニ可被相心得候以上

文政十一子年

支配役所江無沙汰継出候病死人之事

遠州中野村ニ而相果候病死人一件竹垣庄藏伺曾我豊後守下知

書面峯松儀全病死ニ無相違相聞怪敷儀も無之伺人身寄之者も無申分其所江葬呉候樣申立候上ハ死骸ハ
假埋之儘土葬ニ取置雜物ハ葬候寺院江爲取且二川村役人共儀宿村送病人之儀ニ付而ハ御觸有之處峯松
任申送狀相添支配役所江無沙汰ニ繼出候段不埒ニ付急度叱置一同證文取之可被差出候以上

以上引書○地方公裁錄

比罪例

寛政五巳年御渡
駿府町奉行伺

駿府毛皮町穢多頭彦助手下非人共申付を違背いたし候旨申立候一件

岡野肥前守知行
駿州有渡郡
長沼村
名主　嘉右衛門
外三人

右之者共儀銘々村方ニ差置候非人共儀彦助手下とハ不存都而非人之儀ハ榎村組頭共限之支配と心得居
候處彦助手下と承候而ハ村内穢ニ可相成由申立候得共榎村組頭ハ彦助支配受罷在都而非人ハ彦助手下
之趣此もの共ハ利害聞受候得共小前大勢之者ハ利害不弁趣申立候後村方之儀近來困窮ニ而非人江差遣
候米錢ニも差支候ニ付非人共爲立退可申旨之申口ハ畢竟彦助手下を嫌ひ村方非人共より馴合荷擔いた
し候同樣相聞其上出入ニ相成差添ニ罷出候儀難儀ニ付非人共爲立退候方可然趣外村々江廻狀差出爲立
退候相談いたし候始末旁不埒ニ付過料拾貫文宛申付非人共儀ハ年來住來候儀ニ付是迄之通村方ニ差置
御仕置者御用無滯爲相勤候樣申渡

此儀穢多之手下を村内ニ差置候ハ穢成儀と存込候ハ無弁儀と相聞候間强而可咎筋ニも有之間敷候得
共吟味書之趣にてハ非人共江差遣候少々宛之米錢等ニ差支候趣を申立ニいたし非人共を爲立退度旨
一同申合候と有之數年來村内ニ住來候非人共を爲立退度旨申合候段ハ不埒ニ付例相糺候處類例も相
見不申外ニ寄リ所無之間煩候旅人療養も不加其上宿矢ニ送リ出候間屋之御定ニ見合品輕御座候間年
寄之御定ニ准し伺之通過料錢拾貫文宛

評議之通濟

小笠原仁右衛門御代官所
駿州有渡郡
曲金村
名主　惣兵衛

外拾六人

右之者共儀彦助吟味願出候趣及承候後嘉右衛門傳八善右衛門次郎右衛門より廻狀にて申越寄合之席江罷出村方非人之儀も追々呼出ニ可相成哉左候而ハ差添等ニ罷出候儀難儀ニ付何事も無之内非人共爲立退候方可然と申合去丑七月中不殘村方爲立退候段申立候儀呼出ニ相成差添ニ罷出候而已を厭ひ年來村内ニ住來候非人を無故爲立退候儀縱令四人之者より申聞候共得と勘弁可致處無其儀村役人をも乍勤卒忽之取計不埒ニ付過料五貫文宛申付前々之通非人差置御仕置もの御用無滯爲相勤候樣申渡

此儀前書嘉右衛門外三人ニ見合差添ニ出候而已を厭ひ無故非人共を爲立退候趣意ハ同樣ニ御座候得共一躰之始末品輕方ニ御座候間伺之通過料錢五貫文宛申付非人之儀ハ是迄之通村方ニ差置御仕置もの御用無滯爲相勤候樣可申渡

評議之通濟

寛政九巳年御渡

町奉行

小田切土佐守伺

龜島町吉兵衛不實之取計いたし候一件

龜島町

長三郎店

吉兵衛妻

せん

右之者儀夫吉兵衛藤七を物貰ニ差出且相煩候處藥用も不爲致儀を其儘ニいたし置剩吉兵衛留守中藤七儀病氣ニ而立騷土間江落少々疵も出來候ニ付此上右躰之儀無之樣存候ハヽ致し方も可有之處甚八を相賴同人儀帶ニ而縛り候を差留も不致其上藤七相果候處貧窮ニ付菩提所江難葬候迚得と子細承も不致火葬札と唱候札所持之ものより借受葬候段不仁成致し方不屆ニ付江戸拂

此儀藤七相果候節附添罷在候ものニ候得共藤七を夫吉兵衛引受候儀妻之身分ニ而相いなむへき樣も無之且吉兵衛留守中藤七老耄いたし立騷土間江落疵も出來候ニ付此上右躰之儀無之樣存何樣ニも取鎭吳候樣甚八江相賴候儀ニ而藤七を帶ニ而縛り柱江結ひ候ハ甚八取計ニ有之火葬札を以藤七死體を葬候も貧窮ニ而菩提所江ハ葬かたき故得と子細も不相糺惣内世話致シ火葬札借請候儀ニ有之御定書ニ煩候旅人療養も不加其上宿次ニ送出し候ニおゐてハ旅籠屋所拂と有之ニ見合旅籠屋とも違ひ女之儀ニ付品輕候得共一躰之始末實意ニ無之取計御座候間右御定ニ准し所拂

評議之通濟

以上引書○御仕置例類集

追加

九十四 帶刀致候百姓町人御仕置之事

刀脇差共ニ取上

輕追放

從前々之例

一自分と帶刀いたし罷在候百姓町人

寛保三亥年九月大岡越前守石河土佐守水野對馬守伺之內

九十四 帶刀いたし候百姓町人御仕置之事

此所掛紙

刀脇差共ニ取上

輕追放

極

一自分と帶刀いたし罷在候百姓町人

朱書

○ 是ハ當亥六月松平備後守組落合源右衛門知行上州山田郡新宿村百姓清藏儀御仕置に成候例を以相認申候

懸紙

▲○ 是ハ只今迄之取計を以相認申候

懸紙

▲ 是ハ御別紙御書付之趣を以懸紙之通相改申候

右延享元子年二月十七日伺之通御下知本文極

寛保三亥年十月御書付之內

帶刀いたし候百姓町人御仕置之事

一自分と帶刀いたし罷在候百姓町人

尤刀脇指共ニ取上ケ可申と可書加哉

朱書

寛保三亥年六月松平備後守組落合源右衛門知行上州山田郡新宿村百姓清藏御仕置

右一件留書不相見

比罪例

寛政三亥年御渡

輕追放

京都町奉行伺

江州柑子村鉄衣訴越又ハ不埒之取計いたし候一件

内藤加賀守知行
江州甲賀郡柑子村
書業家
百姓
鉄衣

右之者儀郷士餘類ニ而死亡之者戒名ニ院號居士號附來候由其外庄屋勘兵衛儀施物法事等之儀ニ付不筋之取計いたし候趣品々申立地頭江吟味之儀相願候旨申之候得共勘兵衛儀右躰不筋之取計不致旨申之雙方共證據無之申立而已之儀ニ而致醫業候得共一躰百姓之儀前代之者共先年地頭江郷村引渡相成候砌も平百姓ニ而宗門人別帳も惣百姓並ニ差出來外ニ由緒證據等も無之申傳而已之儀ニ付郷士餘類と申儀難相立然ル上ハ平百姓之身分ニ而無謂院號等附候儀不相當之儀且又地頭ニ而不筋之取計有之候ハヽ奉行所江可申立處無其儀不取留儀を相認重き御役人江越訴いたし於地頭申付候口書印形相拒其上猥ニ帶刀いたし候儀ハ兼而御法度之上先年地頭より改も有之一同請印差出置候處心得違とハ乍申伊州上野江罷越候節帶刀いたし候儀共不埒之至ニ付存命ニ候ハヽ刀取上居村拂

此儀無證據又ハ申傳迄之儀申立或ハ死亡之者江無謂院號等を附越訴いたし地頭申付候口書印形相拒候不埒ハ手鎖又ハ過料程之儀ニも可有御座哉ニ候處先年地頭より改も有之一同請印差出置なから伊州上野江罷越候節帶刀いたし候儀重も之不屆ニ御座候ニ付自分と帶刀いたし罷在候百姓町人刀脇差共ニ取上輕追放之御定ニ見合帶刀いたし罷在候ニハ無御座候間右御定より輕く存命ニ候ハヽ刀脇差共取上居村を搆洛中拂

評議之通濟

同村
百姓
安兵衛
外五人

右之者共儀郷士餘類ニ而院號居士號致候儀等鉄衣同樣申立候得共前代之者共先年地頭江郷村引渡相成候砌も平百姓ニ而宗門人別帳等も惣百姓並ニ差出來外ニ由緒證據等も無之申傳而已之儀ニ付郷士餘類と申儀難相立然ル上ハ平百姓之身分ニ而無謂院號等附候儀も不相當之儀且又善兵衛鉄衣儀江戸表ニ而越訴等いたし候儀ハ追而承候旨申之候得共右躰之儀無之樣示合置可申處無其儀殊猥帶刀いたし候儀ハ兼而御法度之上先年地頭より改も有之請印も差出置候處心得違とハ乍申安兵衛儀伊州上野江罷越候節帶刀いたし候儀共一同不埒之至ニ付向後院號居士號等附候儀相止させ安兵衛儀刀取上日數三十日押込

爲次郎惣左衛門長右衛門半七庄左衛門儀同三十日宛押込

此安兵衛ハ前書鉄衣同樣之趣意ニ御座候間刀脇差共取上居村を搆洛中拂爲次郎外四人ハ無證據申傳而已之儀を以無謂死亡之者江院號等を附善兵衛鉄衣惣代を以地頭江難立願申立候をも右兩人ニ任置候不埒迄ニ御座候間五人共三十日手鎖申付院號居士號以來附申間敷旨可申渡

評議之通濟

寛政五丑年御渡
日光奉行伺

高井主膳正家來御用ニ付罷越候旨申立徘徊いたし候尾林文平と名乗候者一件

高井主膳正知行
野州安蘇郡奥國村
割元名主
太郎兵衛忰

文平

右之者儀喜兵衛より强而申聞候迚不輕儀を申旨ニ任高井主膳正家來御用之趣先觸を以道中相通其上右麁忽之不埒を可覆ため主膳正家來御用ニ付登山致し候旨日光御役所江も罷出相屆同心共罷越承糺候砌も取繕申立候段旁不屆ニ付重追放

此儀寶暦五亥年一座掛伺之上御仕置申付候近江國多賀成就院召仕藤森太仲儀甲府勤番杉浦主膳家來之由僞問屋主計方江罷越馬爲出甲府江歸候道中主膳家來之由僞リ通リ候段不屆ニ付輕追放申付候類例有之親太郎兵衛ハ三代以前より苗字帶刀差免此者も一旦主膳正方相勤當正月年禮として罷出候段も無相違候得共當時家來ニハ無之知行所百姓ニ有之親掛リ之忰も苗字帶刀可致旨申渡候儀無之由主膳正方より書付を以申越候趣吟味書朱書ニ有之候間自分と帶刀いたし候百姓町人之御定をも見合此者ハ主膳正家來御用ニ付罷越候旨日光表御役所江相屆同心共承糺候節も同樣申僞候不屆も御座候間右御定より重く刀脇差共取上中追放

評議之通濟

堀籠嚴知行
相州高座郡矢畑村
元名主
權兵衛次男

喜三郎

右之者儀武家奉公相稼候心得ニ候迚町家ニ乍罷在帶刀いたし河野喜三郎と名乗候段も不束之至リ其上文平申合日光參詣いたし候途中ニ而道連ニ成候喜兵衛行衛不相知文平所持之金子迄かたり取候をも如何共心附す同道いたしなから文平儀御用先觸を以道中相通候をも不存罷在候段旁不埒ニ付五十日手鎖

此儀外不埒も御座候得共吟味書之趣ニ而ハ一旦武家奉行いたし候得共相止在方江引込又候去子二月橋本町惣八方江参商ひ向手傳居候趣ニ有之百姓之身分ニ而苗字を名乗帶刀いたし候段重々不屆ニ御座候間自分と帶刀いたし候百姓町人之御定ニ而刀脇差共取上輕追放

評議之通濟

文化六巳年御渡
佐渡奉行伺

佐州水替人足鐵之助初筆申掛いたし候一件

佐州雜太郡相川
貳丁目

定　助

右之もの儀道中帶刀いたし候儀ニハ無之候得共町人之身分ニ而於出雲崎無宿水替人足鐵之助外六人之もの共逃去騒動いたし候場所江帶刀人と見ゟ候樣いたし成罷越候儀道中ニおゐて帶刀之儀ハ勿論苗字等相名乗申間敷旨兼而相觸置候處出雲崎ニおゐて帶刀人之趣ニいたし成候段不屆ニ付所持仕候脇差取上輕追放

此儀吟味書之趣ニ而ハ於出雲崎無宿水替人足鐵之助外六人之もの共逃去右騒動之場所江罷出候節脇差計ニ而ハ人々取用も不宜存候間所持之脇差ニ新井宿ニ而相調候脇差を差添帶刀いたし候ものニハ無之脇差を以帶刀人之躰にいたし成候儀ニ付自分と帶刀いたし罷在候百姓町人刀脇差ともニ取上輕追放之御定より輕く脇差取上越後國出雲崎を搆佐州一國拂

評議之通濟

以上引書○御仕置例類集

追加

(九十五)新田地江無斷家作いたし候もの咎之事

家作取拂せ

過料

從前々之例

一新田地江無斷家作いたし候もの

寶保三亥年九月大岡越前守石河土佐守水野對馬守伺之内

九十五伺新田地江無斷家作いたし候もの咎之事

家作取拂せ

過料

極

一新田地江無斷家作いたし候もの

朱書

●是者寛保元酉年十一月武州青柳村百姓又兵衛與右衛門平兵衛八郎兵衛文七孫七儀引請之御料新田地之内江名主組頭江も不相屆我儘ニ家作井建繼等いたし候段不屆ニ付右六人之もの江過料拾貫文申付

懸紙

是は只今迄之取計を以相認申候

●

右延享元子年二月十七日伺之通御下知本文極

九十五(元)

寛保元酉年十一月廿日申渡

一武州青柳村私領名主引請之御料新田地之内江家作建繼いたし候儀ニ付吟味一件

支配下百姓共不心附新田地之内江家作又は建繼等いたし候ハヽ早速可爲取拂處六ヶ年以來之儀其分ニ差置役儀勤候詮も無之不屆ニ付急度可咎候得共免宥を以

奈須玄竹知行
塙宗悦知行
武州青柳村
名主

役儀取放し過料五貫文ヲ、

同 甚左衛門
伊右衛門

親伊右衛門年寄候ニ付諸事名代勤候はゝ新田地内江家作いたし候節伊右衛門其分ニ差置候共心を付爲取拂候樣可爲致處無其儀殊吟味之節名代之わけをも不申口書印形致不埒ニ付可咎候得共心得違誤旨申ニ付咎之不及沙汰伊右衛門退役申付旨申渡出牢

名主伊右衛門倅 甚五左衛門

新田地之内江致家作候節名主共不心付候ハヽ名主江も可心付處無其儀年來其分ニ差置役儀乍勤不屆ニ付

同村與頭 次郎左衛門
彌惣兵衛

過料五貫文ッヽ

名主組頭江も不相屆新田地之内江我儘ニ家作いたし建繼等まていたし不屆ニ候得共宥免を以

同村
百姓 又兵衛

六人ニ而　過料拾貫文

右家作建継等早速取拂私領地面江可引移候手鎖宿預令赦免
新田地之内江何方江も不相屆家作いたし候段訴出候引請之場ニ無之候共役儀勤候上者右躰之不埒
見聞候ハヽ可申出儀勿論ニ候處六ヶ年以來之儀只今迄不心附此度私領百姓と及出入候故相手方惡
事申立候爲計ニ存付申出候趣心懸之筋とハ不相聞不行屆仕形不屆候得共宥免を以

構無之

追加

寛保四年
延享二年極

九十六 御仕置ニ成候者闕所田畑を押隱候もの咎之事

一御仕置ニ成候もの闕所田畑を押隱候もの咎之事

寛保三亥年九月大國越前守石州土佐守水野對馬守伺之内

九十六 御仕置ニ成候もの闕所田畑を押隱候もの咎之事

一闕所ニ可成田畑地面押隱にれるては

輕追放　組頭　所拂

名主　重追放

年寄　輕追放

組頭　所拂

一御仕置ニ成候もの雜用宿拂等可償ため闕所ニ可成地面
押隱置候儀顯ニおゐてハ

朱書

○　是ハ元文五申年城州綴喜郡長山村百姓十三郎不屆有之村拂ニ成候處闕所田畑之内二ヶ所改帳面ニ相除押隱其外落札人江可
相渡竹松杉實拂候段及白狀庄屋太右衛門重追放年寄彌平次五戸内搆追放百姓頭山城國中追放
但所司代より御老中江被仰越御下知有之例

懸紙

○　是ハ京都町奉行より相伺御仕置申付候例に准評議之上相認申候

與右衛門　平兵衛　八郎兵衛　文七　孫七

伊奈半左衛門御代官所
同村名主　傳左衛門

名主

延享二丑年八月廿日御下ヶ被成候

御定書帳面之内御附札有之箇條書抜之内
御仕置ニ成候もの闕所田畑を押隠候もの咎之事

一御仕置ニ成候もの雜用宿拂等可償ため欠所に可成
地面押隠置候儀顯にたゐてハ　名主　重追放
年寄　輕追放▲
組頭　所拂

御附札

朱書
此題號紛敷相聞へ候左之通可改哉且名主輕追放可然哉
名主　輕追放
組頭　所拂

▲極

一闕所ニ可成田畑地面
押隠にたゐては

朱書
此所年寄之名目有之候何之條下ニも村方ハ名主組頭と相記候上方迄ハ庄屋年寄之名目有之候歟此所外並之通名主組頭と相認庄屋年寄有之所者是に准可申事

延享二丑年十月

御定書帳面之儀ニ付申上候書付

大岡越前守
嶋長門守
木下伊賀守

先達而御下ヶ被成候御定書帳面御附札之通書改并御附札之趣を以在方年寄之名目組頭と相認輕追放之分ハ田畑取上之文言相除且又此度被仰出候町人百姓追放之儀ニ付闕所申付方箇條之内文言書改差上申候以上

丑十月

九十六(元)元文五申年十月京都町奉行伺之内

城州綴喜郡宇治田原郷
長山村庄屋
太右衛門

此もの儀再應吟味仕候處十三郎儀ニ付及出入去年以來入用も有之漸高百九石余之村方下地より及困窮御年貢納さへ立兼候ものとも右入用ニ差詰り可仕樣も無之字粽谷上泉藪二ヶ所共改帳面に除キ置并落

札人江可相渡字道齋谷三ヶ所之竹松杉賣拂候段庄屋役も乍相勤別而不屆之仕形ニ御座候間遠島可申付旨相伺候處御下知重追放

同國同郡同郷
同村年寄
彌平次

此もの儀同斷字粽谷上泉藪二ヶ所地所除キ置三ヶ所之竹松杉賣拂候段年寄役も乍相勤別而不屆之仕形ニ御座候得共庄屋太右衛門得心申聞候儀ニ候得ハ一等輕く家財田畑山林取上五畿内近江丹波武藏下總長崎東海道筋木曾路筋日光日光海道駿州甲州尾州紀州常陸追放可申付旨相伺候處御下知五畿内搆追放

同國同郡同郷
同村頭百姓
林右衛門

此もの儀同斷庄屋年寄申合三ヶ所之竹松杉賣拂候段不屆之仕形ニ御座候間家財田畑山林取上ヶ山城江戸大坂追放可申付旨相伺候處御下知山城國中搆追放

同國同郡同郷
同村頭百姓
十次郎

此もの儀同斷不屆之仕形ニ御座候間家財田畑山林取上ヶ山城江戸大坂追放可申付旨相伺候處御下知山城國中搆追放

城州相樂郡
平尾村
小八郎

此もの儀字道齋谷請取候得共入札前見分仕候節之木品不相見候得共村方庄屋年寄頭百姓より賴候ニ付請取候段書付出候落札人之儀右之木品無之候得共其身之損失ニ候得ハ假初ニも僞成儀書付差出候段不埒ニ御座候間過料三貫文可申付旨相伺候處伺之通御下知有之

城州綴喜郡宇治田原郷
下町村
又右衛門

此もの儀字上泉藪竹庄屋太右衛門頭百姓林右衛門より代銀三拾目ニ買請候得共庄屋年寄頭百姓賴候ニ付落札人より買請候分ニ書付差出候段不埒ニ付過料五貫文可申付旨相伺候處伺之通御下知有之

同國同郡同郷
禪定寺村
喜十郎

此もの儀字粽谷道齋谷松杉太右衛門林右衛門より代銀百目ニ買請候得共兩人賴ニ付落札人より買請候

分ニ書付差出候段不埒ニ付過料五貫文可申付旨伺候處伺之通御下知有之

同國同郡同郷中組頭
下町村
高屋彌惣七

此もの儀郷中組頭役相勤候ニ付右田畑山林改之節能越又々落札人江地所引渡之節も罷越候處道齋谷松杉無之儀心附不申候由引渡之節も猶又相改候而可引渡儀組頭役も乍勤不念之仕形ニ付五十日戸〆可申付旨相伺候處過料拾五貫文可申付旨御下知有之

但彌惣七儀ハ帶刀仕庄屋之上ニ相勤候ものニ御座候

比罪例

天明八申年御渡
大坂町奉行
小田切土佐守伺

領主吟味ニ而闕所ニ可成儀を差量田畑質ニ入候趣取拵候一件

靈源寺嗣堂金貸附支配人
天滿魚屋町
鴻池屋九郎兵衛借屋

右之もの儀彌兵衛相頼候迚同人儀領主吟味ニ而追而闕所ニも可成哉と差量田畑之内飯料手當ニ退ケ置候手段之趣申聞候節自分貸銀滯相濟候利欲ニ拘同意いたし取拵候證文請取右田畑質物銀滯候旨出訴仕候段奉行所を不恐仕方不屆ニ付敲之上所拂

大和屋傳次郎幼少代判
吉兵衛

此儀吟味書之趣ニ而ハ彌兵衛田畑質入致候姿ニ取拵候證文江致死失候年寄忠左衛門印形彌兵衛方ニ有合候を用ひ候儀存罷在候儀ニ候哉否難分候間先達而伺之上小田切土佐守江掛合承糺候處右證文ニ役印有之候忠左衛門ハ先達而致病死候ものの之由ハ吟味ニ付初而承候儀之旨申立候段土佐守申越候彌兵衛儀田畑闕所ニも可成を飯料手當退置候手段之趣申聞候節同人存念之通ニ相成候ハヽ貸銀濟方も可致趣之利欲ニ拘餘銀丈之地所此もの名前ニ致置追而彌兵衛手當ニいたし度頼をも承受取拵出訴いたし候者ニ候間彌兵衛田畑闕所ニ可成を倶々ニ押隱候趣意ニ相當候付御仕置ニ成候ものの之闕所ニ可成田畑地面押隱候組頭所拂と有之候御定ニも似寄可申哉ニ候處利欲ニ拘リ奉行所江取拵之儀致出訴候不屆も有之右御定より品不宜候間伺之通敲之上所拂

評議之通濟

追加

九十七 御仕置ニ成候もの悴親類江領ヶ置候内出家願いたし候もの之事

従前々之御

一御仕置ニ成候もの之悴遠島追放等ニ申付候もの幼少故拾五歳迄親類江預ヶ置候處出家にいたし度旨寺院より相願候ハヽ伺之上出家に可申付事

但出家ニ成候上江戸徘徊不仕住居定置他所江參候節ハ奉行所江相屆勿論御朱印地又ハ御由緒有之御目見仕候程之寺院江ハ住職不仕若住持不仕候而不叶譯も有之歟公儀向江罷出候儀有之候ハヽ奉行所江其節可伺旨申渡右之段師弟共ニ證文可申付事

寛保三亥年九月大岡越前守石河土佐守水野對馬守伺之内

九十七 伺 御仕置ニ成候もの悴親類江預ヶ置候内出家願いたし候もの之事

極

一御仕置ニ成候もの之悴遠島追放等ニ申付候もの幼少故拾五歳迄親類江預ヶ置候處出家にいたし度旨寺院より相願候ハヽ伺之上出家ニ可申付事

極

但出家ニ成候上江戸徘徊不仕住居定置他所江參候節ハ奉行所江相屆勿論御朱印地又ハ御由緒有之且御目見仕候程之寺院江ハ住職不仕若住持不仕候而不叶譯も有之歟公儀向江罷出候儀有之候ハヽ奉行所江其節可伺旨申渡右之段師弟共ニ證文可申付事

朱書

○ 是ハ元文三午年九月佐野新藏悴万助儀父新藏於配所不慎之儀有之御仕置就被仰付候万助儀遠島被仰付幼年ニ付拾五歳まて姉聖佐橋左門江御預ヶ被成候處日光御門跡より出家御願被仰立相濟碑文谷法華寺弟子ニ成候例

○ 是ハ唯今迄之取計を以相認申候

掛紙

右延享元子年二月十七日伺之通御下知本文極

九十七 元 親御仕置ニ成其子遠島追放ニ被仰付候處拾五歳以下ニ付親類江預ヶ置候處出家願之儀申出願之通申付當人并師匠江證文申付ル

當人より差出證文

差上申一札之事

一拙僧親佐野新藏儀不屆有之拾ヶ年以前遠島被仰付其節拙僧儀何之御搆も無御座候處新藏儀於配所又候不慎之儀有之御仕置被仰付候依之拙僧儀遠島被仰付幼年ニ付拾五歳迄姉聟佐橋左門江御預ヶニ罷成候處今度從日光御門跡遠島御免出家御願之儀被仰立并拙僧親類共も同樣奉願候願之通被仰付候旨碑文谷法華寺弟子出家仕度旨是又奉願候處遠島御赦免願之通被仰付難有奉存候則碑文谷法華寺鑑古弟子ニ罷成剃髪仕法名智觀と相改申候今年拾貳歳ニ罷成候ニ付江戸表徘徊不仕住所定置他所江罷越候時分者御奉行所江御屆可申上候勿論逼參仕候共御朱印地又ハ御由緒有之且御目見仕候程之寺院江ハ住職仕間敷候若住持不仕候而不叶譯も御座候歟公儀向江罷出候儀御座候ハヽ其段上野執當中江申達可奉伺候爲後證仍如件

元文三戊午年九月十八日

寺社　　東觀山　碑文谷法華寺弟子　佐野万助事　智觀

御奉行所

右智觀江被仰渡候趣拙僧一同奉承知候依之奥印仕差上申候以上

東觀山末　碑文谷　法華寺　鑑古

師匠より差出候證文

差上申一札之事

一元御小納戸佐野新藏儀不屆有之拾ヶ年以前遠島被仰付其節悴万助儀ハ何之御搆も無御座候處新藏儀於配所又候不慎之儀有之御仕置被仰付候依之万助儀遠島被仰付幼年ニ付拾五歳迄姉聟佐橋左門江御預ヶニ罷成候處今度從日光御門跡遠島御免出家御願之儀被仰立并万助親類共も同樣奉願候願之通被仰付候ハヽ拙僧弟子ニ仕出家爲仕度奉願候處遠島御赦免願之通被仰付難有奉存候万助儀則剃髪爲仕法名智觀と相改申候今年拾貳歳ニ罷成候ニ付向後江戸表徘徊不爲仕住居定置他所江參候時分ハ御屆可申上候勿論御朱印地又ハ御由緒有之且御目見仕候程之寺院江ハ住職爲仕間敷候若住持不仕候而不叶譯も御座候歟公儀向江罷出候儀御座候ハヽ其節可奉伺旨被仰渡奉畏候尤拙僧儀居所替候ハヽ其趣御斷可申上候爲後證仍如件

東叡山末
碑文谷
法華寺

天台宗　鑑古

上野執當

覺王院

元文三戊午年九月十八日

寺社御奉行所

右法華寺鑑古江被仰渡候趣拙僧一同奉承知候依之奥印仕差上申候處以上

類例

寶暦四戌年六月

父之科ニ而遠島被仰付拾五歳以下ニ付親類江預中出家願出候者遠忌之御赦ニも可被免旨御書付

三奉行江

父之科ニ而其子遠島被仰付拾五歳以下ニ付親類江御預之内遠島御免出家願只今迄御遠忌御法事之赦ニ八難成旨被申聞候得共向後御遠忌之赦ニも御免可被成候間可被得其意候

戌六月

引書○御仕置筋御書付留

書面伺之通可申渡旨被仰聞承知仕候

文化十酉年

父之科有之願之上出家いたし候もの御府内寺院住職之儀ニ付評議

酉十月廿四日　内藤豐前守

鮎附

書面評議仕申上候通内藤豐前守江被仰聞候旨承知仕候
酉十月廿四日　評定所一座

御代官青木楠五郎儀天明八申年遠島被仰付悴共者依父科中追放被仰付候處右之内式部千勝乙巳之進者拾五歳迄親類共江御預ニ相成候處谷中曹洞宗玉林寺弟子ニいたし出家爲致度旨を以中追放御免之儀願出寛政元酉年松平右京太夫寺社奉行勤役之節伺之上右三人共願之通中追放御免出家可仕旨申渡御定之通江戸表徘徊不仕住居定置他所江參候節八奉行所江相屆勿論御朱印地又者御由緒有之且御目見いたし

候程之寺院江ハ住職不仕若住持不仕候而不叶譯も有之歟公儀向江罷出候儀有之候ハヽ其節可伺旨も申渡師弟とも證文申付置候處千勝儀僧名錦縫と相改遍歷いたし一寺住職可相勤人器ニ相成玉林寺法類淺草心月院住持堯禪隱居いたし後住いたし度志願ニ御座候處御朱印地并御由緒も無之平寺ニ付楠五郎惣領龜之助事青木鄕助者被召出相勤罷在候儀堯禪願之通仕度旨觸頭橋塲總泉寺添簡を以松平和泉守寺社奉行之節玉林寺伺書差出候ニ付楠五郎御赦之有無をも永田備後守肥田豐後守江掛合承糺し候處小田切土佐守町奉行勤役之節寛政九巳年大納言樣御元服御官位御祝儀之御赦ニ御免之儀申上候得共於島病死いたし其後御免之御下知無之もの之段申聞取調罷在候內和泉守病氣願之通寺社奉行御免ニ付私方江請取猶又取調候處錦縫儀心月院住職不致候而ハ難叶子細も無御座父楠五郎御赦之御沙汰も無之候間旁以伺之趣難相成筋と奉存候得共既錦縫兄青木鄕助者先達而中追放御免之後被召出當時相勤罷在候程之儀錦縫も出家不仕罷在候ハヽ是迄度々之御赦ニ御免も可有御座哉然ル處先達而中追放ハ御免之儀ニ付當時御赦ニ可被仰付品ハ無御座候處元御代官大草太郎左衛門次男兎毛事實論三男辰三郎事惠海中追放御免出家いたし候後病氣ニ付療養之ため歸俗爲仕度旨牛込正藏院相願去ル亥年堀田豐前守寺社奉行之節右兩人父太郎左衛門先達而御赦被仰付候事ニ付願之趣ハ承屆歸俗之儀ハ兄門左衛門并上野執當江も申談勝手次第可致尤歸俗いたし候ハヽ其旨可相屆旨可申渡哉之趣相伺候處伺之通御差圖相濟候類例も御座候間歸俗とも譯達御府內寺院江住職仕候迄之儀ニ而御定書之趣ニ而も不叶譯も有之候はヽ可伺と有之決而難相成と之御趣意とも相見不申候間玉林寺伺之趣は錦縫兄青木鄕助先達而被召出候儀ニ付淺草心月院後住ニいたし候儀勝手次第可致尤同院住職いたし候上は江戸徘徊も是又不苦段玉林寺江可申渡候哉差當先例は無御座候得共同役共評議之上此段相伺申候

此儀評議仕候處錦縫儀心月院住職不致候而不叶譯者無之趣ニ御座候得共父之依科御仕置被仰付候分は御祝儀并御法事御赦有之候節父御仕置御赦之有無又者年數ニも不拘御免有之候儀ニ而殊青木楠五郎同樣御仕置被仰付候大草太郎左衛門先達而御赦ニ相成尤楠五郎者於島ニ病死いたし御赦之御沙汰無之とは乍申同人惣領鄕助者被召出當時相勤罷在候儀にも有之并太郎左衛門次男三男歸俗之願迄相濟候ニ見合候而も旁伺之通被仰渡可然哉ニ奉存候

引書○御仕置例類集

天保九戌年

依父之科預中之者出家願ニ付預差免之件申渡

元寄合
太田波之丞悴
太田仙太郎

其方儀先達而依父之科中追放申渡幼年ニ付十五歳迄親類江預置候處中追放御免弟子致し出家爲致度段

牛込早稲田町龍善寺相願候ニ付寺社奉行松平伯耆守方ニ而願之通リ申渡候間依之預差免

右仙太郎儀依父之科中追放申渡幼年ニ付十五歳迄預置候處出家爲致度旨龍善寺寺社奉行松平伯耆守江願出候ニ付中追放御免申渡候依之預差免

右者太田仙太郎預人櫻井隼人河内長左衛門名代小普請組長井五右衛門支配田澤縫殿江申渡候事

元寄合
太田波之亟忰
太田仙太郎

引書○諸事留

追加

九十八年貢諸役村入用帳面印形不取置村役人咎之事

延享元年極

一年貢諸役村入用帳面等惣百姓江不爲見并印形をも不取置
におゐてハ

但名主組頭私欲有之におゐてハ名主家財取上所拂組頭役儀取上過料

名主 役儀取上 過料
組頭 過料

延享元子年八月大國越前守鳥長門守水野對馬守伺之内

九十八年貢諸役村入用帳面印形不取置村役人咎之事

極

一年貢諸役村入用帳面等惣百姓江不爲見并印形をも
不取置ニおゐてハ

▲ 朱書

是者元文五申年御書付之趣を以評議仕相認申候

名主 家財取上 所拂
組頭 役儀取上 過料

▲ 極

但名主組頭私欲有之におゐてハ名主家財取上所拂組頭役儀取
上過料

朱書

是者御別紙御書付之趣御尤ニ奉存候ニ付御好之通書改且又私欲有之節之御
仕ハ但書ニ相認申候尤御仕置之儀只今迄御定無御座候

名主 役儀取上 過料
極 組頭 過料

右同月十七日伺之通御下知本文極

九十八㊀元文五申年九月御書付

一諸國村々大小之百姓共年貢幷諸役懸リ物或村入用等ニ至迄毎年名主組頭念入帳面ニ記し惣百姓立合勘定無相違ニおゐてハ銘々印形取置可申候尤名主組頭も右帳面ニ奥判可仕事

右者定りたる事たりと云へ共端々ニハ年來之仕くせを以毎年勘定帳面惣百姓印形をも不取置出入ニ及ひ候儀間々有之候條自今以後此旨急度可相守事

右之趣知行村々江可相觸候若此以後出入ニ及候節遂吟味件之觸書不致承知村方有之ハ地頭可爲越度候

以上

▲九月

延享元子年八月十一日御書付

是者御法度を忘却いたし候迄ニ而私曲無之候ハヽ名主ハ役儀取上過料組頭ハ過料ニ而可然候若名主組頭私欲有之候ハヽ此度伺之通咎可然候是者兼而御定も有之歟

寶暦六子年十二月

一色安藝守懸

信州御所平村と認候無名御箱訴狀一件

松平丹波守御預リ所
信州佐久郡御所平村
年番名主　茂右衛門

右之もの儀私欲之筋ハ無御座候得共百姓任申旨御年貢請取書不相渡殊得心印形不取置故新七相疑ひ且鎮札申請候入用幷祭禮入用等村中相談之上差出候由雖申是又得心印形不取置候段不埒ニ付年番名主取放過料錢五貫文

同村
長百姓　久左衛門
外四人

右之もの共儀年番名主相勤候節私欲之筋無之候得共帳面等可入念處等閑之致方不埒ニ付過料錢五貫文ツヽ

寛政十一未年二月
安藤對馬守殿御差図
脇坂淡路守掛

濃州中田村伊右衛門外弐拾人儀同村元名主甚吾取計之儀品々申立候一件

別所善之助知行
濃州石津郡中田村
元名主　甚　吾

右之者儀名主役相勤候節代官富田與左衛門差圖ニ候迚丑寅兩年年貢石代餘慶ニ取立其上地頭類燒之節差出候用金軒別ニ乍取立隱居ニ候迚別宅致シ居候親常右衛門より不取立段不筋取計殊ニ右用金之利足貳ヶ年分井酉戌兩年救米代又ハ寅年先納金之内一旦割返しニ相成候分先納金江差向候ハヽ多羅組四ヶ村一統之儀ニ候共小前之もの江申聞可取計處仕來ニ泥ミ年貢諸夫錢都而村入用勘定帳江組頭百姓惣代之印形も不取置不束ニいたし置候故疑受候始末ニ相成其上荒地起返シ之儀地頭江申立方及延引候段旁不埒ニ付過料錢拾貫文

右御答附

右安永八亥年桑原伊豫守御勘定奉行之節手限伺之上御答申付候相州高座郡香川村元村役人市郎兵衛儀名主相勤候節之村入用巨細之仕分ヶ認メ候取立帳江百姓共印形も不取置殊ニ村役人寄合之節酒代其外小前江割合間敷筋之出錢迄村入用ニ仕組取立其上帳面之内紛失致し候由ニ而年々之分不相揃地頭江百姓共より差出候用金年々十二月迄之利足地頭より請取百姓共江ハ十一月迄之利足差遣し候段旁不埒ニ付役儀取上過料錢五貫文申付候例ニ見合此者も先達而退役いたし候得共品不宜候間過料錢拾貫文

以上引書○御仕置例書

追加

九十九　輕き惡事有之もの出牢之上答ニ不及事

延享元年極

一手鎖過料戸〆等可申付輕き惡事有之もの吟味之内六十日以上入牢申付置候もの之分ハ出牢之節右答可申付候得共日數致入牢ニ付令宥免候旨申渡別ニ不及答同列之内不致入牢科人者相當之答ヱ可申付事

但所拂役儀取上候類ハ何ヶ月入牢候共宥免之沙汰有之間敷事

延享二年極

一敲御仕置ニ可成もの吟味之内拷問申付候にたゐてハ追而不及答事

九十九　延享元子年六月大岡越前守鮫長門守水野對馬守伺之内

「一輕き惡事有之ものハ手鎖過料戸〆等申付候事夫々御定も有之候右科人有之節早速吟味相濟候も有之

候入牢申付候得者三十日計ニ而吟味候ハ稀にて四五ヶ月若ハ十ヶ月ニ及ひ候も有之候元來重キ咎可申付ものに無之處數月入牢ニ而難儀いたし町中村中江も物入懸リ候上出牢之節手鎖戸〆等申付又候物入も相增可申候役所も其事かゝり有之旁不可然事歟向後ハ件之手鎖過料戸〆可申付もの吟味之內入牢之日數三十日六十日か以上候ハゝ出牢之節手鎖過料押込可申付候得共日數致入牢候故令宥免旨申渡候ハゝ夫ニ而格式も相立可申候故若同列之內不致入牢科人有之而其もの共にハ手鎖過料戸〆申付候共片落ニも相聞申間敷哉之事

右之外所拂或役儀取上候類者何ヶ月入牢候共宥免之沙汰有之間敷事

朱書

右御尋之趣奉承知御尤ニ奉存候左之懸紙之通相認可然哉奉存候

懸紙

極 輕キ惡事有之もの出牢之上咎ニ不及事

極 一手鎖過料戸〆等可申付輕キ惡事有之もの吟味之內六十日以上入牢申付置候もの之分ハ出牢之節右咎可申付候得共日數入牢致ニ付令宥免候旨申渡別ニ不及咎同列之內入牢不致科人ハ相當之咎〆可申付事

極 但所拂役儀取上候類者何ヶ月入牢候共宥免之沙汰有之間敷事

右同年八月二日伺之通御下知本文極

延享二丑年八月大岡越前守嶋長門守木下伊賀守伺之內

輕キ惡事有之もの出牢之上咎ニ不及事

極 ■輕御仕置ニ可成▲もの吟味之內拷問申付候にたゐてハ追而不及咎事 ×

朱書

是ハ當丑七月伺之上御下知之趣を以相認申候

御附紙

極 ×■敲御仕置ニ可成▲と致可然

九十九元延享元子年五月御書付

一輕キ惡事有之ものハ手鎖過料戸〆等申付候事夫々御定も有之候又者入牢之上吟味相濟候も有之候入牢申付候得ハ三十日計ニ而吟味濟候ハ稀ニ而四五ヶ月若ハ十箇月ニ及候も有之候元來重キ咎可申付

ものに無之處數月入牢ニ而致難儀町中村中江も物入かゝり候上出牢之節手鎖戸〆等申付又候物入も相增可申候役所も其事懸リ有之旁不可然事か向後ハ件之手鎖過料戸〆可申付もの吟味之内入牢之日數三十日六十日か以上ニ候ハゝ出牢之節手鎖過料押込可申付候得共日數入牢いたし候故令宥免旨申渡候ハゝ夫にて格式も相立可申候若同列之内不致入牢科人有之其もの共ニハ手鎖過料戸〆申付候共片落ニも相聞申間敷哉之事

一右之外者所拂或役儀取上候類ハ何ヶ月入牢候共宥免之沙汰有之間敷事

同月大膳越前守石河土佐守水野對馬守御答書

一輕キ惡事有之者ハ手鎖過料戸〆等申付候事夫々御定も有之候右科人有之節早速ニ吟味相濟候も有之又ハ入牢之上吟味相濟候も有之候入牢申付候得ハ三十日計ニ而吟味濟候ハ稀ニ而四五ヶ月若ハ十ヶ月ニ及候も有之候元來重キ咎メ可申付ものに無之處數月入牢ニ而致難儀町中村中江も物入かゝり候上出牢之節手鎖戸〆等申付又候物入も相增可申候役所も其事かゝり有之旁不可然事歟向後ハ件之手鎖過料戸〆可申付もの吟味之内入牢之日數三十日六十日か以上ニ候ハゝ出牢之節手鎖過料押込可申付候得共日數入牢いたし候故令宥免旨申渡候ハゝ夫ニハ手鎖過料戸〆申付候共片落ニも相聞申間敷哉之事

一右之外ハ所拂或役儀取上候類ハ何ヶ月入牢候共宥免之沙汰有之間敷事

右御書付之趣評議仕候處御尤奉存候追而御定書ヶ條伺之内江御書面之趣書加相伺候樣可仕候右御書付一通相添返上仕候以上

子五月

類例

明和四亥年十一月十三日

數日入牢之者御咎宥免無之儀ニ付御書付

御家人押込ニ相成候科之者數日揚屋ニ入候ニ付咎可申付候得共令宥免咎之沙汰不及旨申渡候も有之無其差別咎申付候も有之區ニ候向後御家人之分ハ數日揚屋ニ入候共無其差別咎申付候方と可被心得候尤以來不紛樣可被致候

享和三亥年御渡

長崎奉行伺

引書〇三奉行取計書

高木作右門御代官所
肥前國浦上村里郷帳面
同村淵掛飽ノ浦郷住居
代　助

右之もの儀去戌四月四日市中郷中拂相成候無宿彦太郎同六日立歸候を村役人召捕村境より追拂候上同夜直ニ立入最前被捕候節村方之もの幷從弟權右衛門詫言いたし吳不申儀遺恨ニ存麥藁ニ火を附郷中振歩行或庖丁を持村方之もの共可切殺旨惡口いたしあはれ廻權右衛門宅江も仕懸參右同樣致惡口罷在候段及承驅付其節彦太郎逃去候ハヽ右之趣早速庄屋江申立取計方も可有之候處無其儀彦太郎を捕可訴出と同郷兵次郎外四人申合行衛相尋候途中にて又候庖丁を持驅參り手ニ餘り候迚此もの發言いたし有合候薪を以一同打懸り其外面躰不見留村方之もの共多人數ニ而打倒彦太郎絶命之上一統取掛り同人所持之庖丁を取所々疵付其儘捨置罷歸吟味相掛候迄押隱罷在候始末不屆ニ付中追放

此儀去ル辰年根岸肥前守御勘定奉行之節手限伺之上申渡候上州宇田村組頭七左衛門忰長右衛門外三人儀村内神宮寺江押込候盗賊共を捕候ハヽ其段村役人江申聞領主江申立候樣可心附處先達而同村源助方江押込候盗賊ニ相違無之間打殺吳候樣源助申候迚驅參リ候もの共村内河原江連參リ大勢ニ而打殺死骸を埋置候段不埒ニ候得共打殺候ものハ盗賊ニ無相違訴延引および候ハ村役人共之不埒ニ付長

右衛門外三人ハ無構旨申渡候ニ見合此もの殺し候彦太郎ハ構之地江立入あはれ候ニ付死罪ニ可相成ものニ候得共一躰同人を捕可訴出と兵次郎外四人申合尋候途中彦太郎庖丁を持驅參り手ニ餘り候とも六人之儀ニ付差押方可有之處既ニ打臥及絶命候上庖丁を取リ所々疵付吟味相懸リ候迄押隱罷在候段品不宜候間三十日手鎖可申付候處六十日以上入牢ニ付御定之通令宥免不及咎之沙汰

評議之通濟

同人御代官所
同　郷
兵　次　郎
外　四　人

右之もの共儀去戌四月四日市中郷中拂相成候無宿彦太郎同六日立歸候を村役人召捕村境より追拂候上同夜直ニ立入最前被捕候節村方之もの幷從弟權右衛門詫言いたし吳不申儀遺恨ニ存麥藁ニ火を附郷中振歩行或庖丁を持村方之もの共可切殺旨惡口いたしあはれ權右衛門宅江も仕掛參り右同樣惡口いたし罷在候段及承驅付其節彦太郎逃去候ハヽ右之趣早速庄屋江申立取計方も可有之處無其儀彦太郎を捕可訴出と代助申合行衛相尋候途中にて又候庖丁を持驅參リ手ニ餘り候付可打倒旨代助申候迚有合候薪を以一同打掛リ其外面躰不見留村方之もの共多人數にて打倒彦太郎絶命之上一統取掛リ同人所持之庖丁

を取所々疵付其儘捨置罷歸吟味相懸候迄押隱罷在候段不屆ニ付過料錢拾貫文宛
此儀前書代助申ニ隨ひ候もの共ニ付同人より輕く急度叱リ置可申處六十日以上入牢ニ付御定之通令
宥免不及咎沙汰

評議之通濟

引書○御仕置例類集

按ニ此節ノ類例ハ亦卷廿四三笠附博奕同廿八出火ニ付而之咎同三十人殺并疵付ノ比罪例中ニ散見セリ就テ看ル可シ

追加

百 名目重相聞候共事實にたゐて强而人之害ニ不成ハ罪科輕重格別之事
一似せ薬種致商賣候ものハ死罪其外之似せもの人命ニかゝらさる儀ハ咎輕き事
一升秤私ニ造り候共輕重大小本樣ニ無相違ハ他之損失無之故其咎メ輕き事
一極貧之もの其子を同輩之者之養子ニ遣候ハ賣候も同然ニ候故養父又外江賣候共人を勾引賣候とハ格別之事
一人を殺候ものを圍置候者本人同然之罪科ニ候得共當座之喧嘩ニ而人を殺其ものに被頼義理を以圍置候類ハ咎輕き事
一惣而制禁を犯候もの有之時證據を以而爲可訴之謀書を認或人之作リ名ニ判を押候類ハ欲心を以而人を欺候とハ格別之事

延享元年經

右之類名目不泥其主意を糺可致評議事

百 延享元子年六月大岡越前守鳥長門守水野對馬守伺之内

▼一名目重ク相聞ヘ候共事實におゐて强而人之害にならさるハ罪科輕重格別之事
一似せ薬種致商賣候ものハ死罪其外之似せもの人命ニかゝらさる儀ハ其咎メ輕キ事
一升秤私に造り候共輕重大小本樣ニ無相違ハ他之損失無之故其咎メ輕き事▲

朱書

右二ヶ條御尋之趣奉承知御尤ニ奉存候則其御仕置錦條但書ニ御書面之趣左之懸紙之通書載可申哉奉伺候

毒薬似薬種賣御仕置錦條之内

引廻之上 死罪

一似薬種賣候もの

此所懸紙

但人命ニかゝらさる似せ物賣候ものハ 重過料

似秤似桝似朱墨拵候もの御仕置箇條之内

一似秤拵候もの

○ 但掛目違無之におゐてハ中追放

懸紙

○ 但掛目不違他之損失無之におゐてハ重過料

引廻之上 獄門

一似桝拵候もの

◆ 但入目違無之にたゐてハ中追放

懸紙

◆ 但入目不違他之損失無之におゐてハ重過料

一極貧之もの其子を同輩之もの之養子ニ遣シ候ハ賣候も同然に候故養父又外江賣候共人を勾引賣候と

ハ格別之事

朱書

右御尋之趣奉承知御尤奉存候則養娘遊女奉公に出し候もの箇條之末江書入題號も左之掛紙之通相改可然哉ニ奉存候

養娘遊女奉公ニ出シ候もの之事

掛紙

○ 養子を遊女奉公ニ出し又ハ外江賣候もの御仕置之事

輕キもの養娘遊女奉公ニ出し候もの〻條之次江書入可申候

一極貧之もの其子を同輩之もの之養子ニ遣候ハ賣候も同然

ニ候養父又外江遣賣候ハ人勾引賣候とハ格別ニ付中追放

一人を殺候ものを圍置候ハ本人同然之罪科ニ候得共當座之喧嘩にて人を殺シ其ものに被頼義理を以圍

候類ハ咎輕キ事

朱書

右御尋之〻條ハ先達而御下知有之科人爲立退住所を隱候もの御仕置〻條之内江書載有之ニ付此度書加不申候

一惣而制禁を犯候もの有之時證據を以爲可訴之謀書を認或人之作リ名に判を押候類ハ欲心を以人を欺

候とハ格別之事

朱書

右御尋之趣奉承知御尤ニ奉存候間謀書謀判致候もの〻條之末江左之掛紙之通書載可申候

掛紙

謀書と乍存頼に任せ認遣候ものゝ條之次江書入可申候

一惣而制禁を犯候もの有之時
　證據を以爲可訴之謀書を認
　或人之作リ名に判を押候類　　輕追放

御附紙

一似せ薬種商賣之事　一舛秤私ニ造ルもの之事
一極貧之もの養子之事
一人を殺候ものを圍置候者之事
一惣而制禁を犯候ものを可訴ための事
　此五ヶ條御仕置付ケ是非を御尋之譯ニ而ハ無之候
　此條々之御仕置御定ハ相極リ有之候を名目に不泥
　主意を糺候得と譬ニ被書出たる御事ニ候仕置御定
　書兼而渡し被置たる御役人別而心得之ため被載之
　事

掛紙

名目重ク相聞候共事實におゐて強而人之害に
　ならさるハ罪科輕重格別之事
一似せ薬種致商賣候ものハ死罪其外之似せもの人命に不懸儀
　ハ咎メ輕キ事
一舛秤私ニ造リ候共輕重大小本樣ニ無相違ハ他之損失無之故
　其咎メ輕キ事
一極貧之者其子を同輩之もの之養子ニ遣シ候ハ賣候も同然ニ
　候故養父又外江賣候共人を勾引賣候とハ格別之事
一人を殺候ものを圍置候ハ本人同然之罪科に候得共當座之喧
　嘩にて人を殺シ其ものニ被頼義理を以圍候類ハ咎輕キ事
一惣而制禁を犯候もの有之時證據を以爲可訴之謀書を認或人
　之作リ名に判を押候類ハ欲心を以人を欺候とハ格別之事
　右之類名目不泥其主意を糺可致評議事

朱書

右御附紙之趣奉承知御仕置仕形之前江掛紙之通相認申候

右同年八月二日伺之通御下知本文極

百㊇延享元子年五月御書付之内

一名目重ク相聞候共事實にたゞて強而人之害にならさるハ罪科輕重格別之事

一似せ薬種致商賣ものハ死罪其外之似せもの人命にかゝらさる儀ハ咎輕キ事

一升秤私ニ造リ候共輕重大小本樣に無相違ハ他之損失無之故其咎メ輕キ事

一極貧之もの其子を同輩之もの之養子ニ遣シ候ハ賣候も同然ニ候故養父又外江賣候共人を勾引賣候とハ格別之事

一人を殺候ものを圍置候ハ本人同前之罪科に候得共當座之喧嘩にて人を殺其ものに被頼義理を以圍候類ハ咎輕キ事

一惣而制禁を犯候もの有之時證據を以爲可訴之謀書を認或者人之作リ名に判を押候類ハ欲心を以人を欺候とハ格別之事

猶此類品々可有之必名目ニ不泥其主意を糺評議可有之事

按ニ此節ノ類例ハ卷廿七謀書謀判及毒薬似せ薬種賣同廿八似せ金銀ノ比罪例中ニ包含セルヲ以テ玆ニ贅セス

追加

百一 吟味事之内外之惡事相聞候共舊惡御定之外ハ不及相糺事

一惣而吟味事之内より外ニも惡事有之趣相聞候共舊惡をも不被免品々ハ格別其餘之惡事ハ不及相糺最前よ

り取掛リ候吟味を詰相應之御仕置ニ可申付事

百壹 延享二年九月大岡越前守島長門守木下伊賀守伺

一惣而吟味事之内より外ニも惡事有之趣相聞候共舊惡をも不差免品々ハ格別其餘之惡事ハ不及相糺最前より取掛リ候吟味を詰相應之御仕置ニ可申付事

右之通被仰聞候趣御尤至極奉存候後々迄之儀ニ御座候間御定書之内江書入可然奉存候先達而ハ密通筋之儀と計相心得申上候御書面之通ニ候得ハ惣躰ニ相籠リ可然御儀ニ奉存候則去月晦日御渡被成候御書付壹通同廿四日差上候書付壹通返上仕候以上

丑九月

延享二丑年八月御渡被成候御書付

一惣而吟味事之内より外ニも惡事有之趣相聞候共舊惡をも不差免品々ハ格別其餘之惡事ハ不及相糺最前より取掛リ候吟味を詰相應之御仕置ニ可申付事

延享二丑年九月

御渡被成候御書付之儀ニ付申上候書付

極

一慾而吟味事之内より外ニも惡事之趣相聞え候共舊惡をも不被免品々ハ格別其餘之惡事ハ不及相糺最前より取掛候吟味を詰相應之御仕置ニ可申付事

右之箇條書加可然哉評議之上彌可然候ハヽ相應之處江書載可申事

右御書面之趣奉承知御尤至極奉存候御定帳面之内名目重々相聞候共事實にたゞてハ罪科輕重格別之事箇條之末江書加可申候則御渡被成候御書付壹通返上仕候以上

丑九月

百壱(元)延享二丑年八月被仰聞候御内意覺書

吟味事之内ニ密通之事顯レ夫ニ付吟味之手掛ニも可成候得共先ハ密通筋ハ不承心得ニ而其儀を尋る事ニハ無之と申取扱可然哉此段ハ上より被仰出候儀も難被成下よりも書付抔ニ而御答も難申上儀ニ被思召候右之趣ニ心得罷在候樣にと思召候事

明和八卯年御渡

御勘定奉行

安藤彈正少弼伺

吟味事之内密通之舊惡有之趣相聞候もの取計方之儀ニ付評議

一小林孫四郎御代官所野州那須郡東沓掛村百姓三左衛門甥次兵衛儀不行跡ものニ而品々不埒有之其上伯父三左衛門を致打擲母を突倒及物を振廻シ惡口致し候段三左衛門并五人組一同孫四郎方江訴出候由ニ而差出候ニ付一件吟味仕候處訴之趣無相違相聞申候親を致打擲候もの磔同切懸ヲ候もの死罪伯父を致打擲候もの之御定ハ無之候得共遠島にも相當可申哉孰にも死刑ハ難遁ものニ御座候然ル處寶暦十辰年二月同郡遲澤村百姓定右衛門女房つるを次兵衛密通之上誘引出候處取扱人有之金貳兩定右衛門江遣内濟いたし定右衛門ハ去ル亥年病死仕つるは當時次兵衛女房ニ而罷在候由ニ相聞申候此儀御定書ニ惣而吟味事之内より外ニも惡事有之趣ニ相聞候共舊惡をも不被差免品々ハ格別其餘之惡事ハ不及相糺最前より取懸ヲ候吟味を詰相應之御仕置ニ可申付と有之右御定之最初ハ全密通之儀ニ御座候然ル處舊惡御仕置之ヶ條ニ舊惡ニ候共御仕置相伺可申内都而公儀之御法度を背死罪以上之科ニ可被行ものと有之夫有之女之密通ハ死罪ニ御座候間舊惡ニ候共不差免内ニ可有御座候處舊惡御仕置之御定ハ度々御尋有之舊惡ニ不相立分ヶ條多申上候儀ニ御座候處右ヶ條之内ニ密通之科ハ相見不申候左候得ハ密夫逃去候ハヽ妻ハ夫之心次第ニ可申付旨之御定故公儀之御法度を背候ヶ條江ハ入不申儀にも可有御座候哉然ル上

ハ前書今般之一件ニ不限都而出訴外ニ密通之儀を申出候而も相紛候ニ不及吟味之引合ニ而難捨置吟味詰候而も舊惡ニ相立候筋ニ可有御座候哉又ハ御仕置相伺候筋ニ可有御座候哉決定難仕御座候間評定所一座ニたゐて評議有之候樣仕度旨申上候

此儀御定書舊惡ニ候共御仕置相伺可申ヶ條之内

一都而公儀之御法度を背キ死罪以上之科ニ可被行もの

右之通有之都而御仕置ニ相成候科ハ公儀之御法度を背キ候ニ而可有御座處夫有之女之密通ハ死罪之御定ニ御座候間舊惡ニ相立申間敷候處御定書之内惣而吟味事之内より外ニも惡事有之趣相聞候共舊惡を也不被差免品々ハ格別其餘之惡事ハ不及相紛最前より取懸り候吟味を詰相應之御仕置可申付と有之延享二丑年御内意之御趣意も御座候得共夫無之女之密通之儀ニ而も可有御座候哉と評議仕候處都而御仕置ニ相成候科公儀之御法度を背候趣意ニ御座候ハヽ前書舊惡ニ不相立ヶ條も死罪以上之科と計可有之處公儀之御法度を背候と有之候間死罪御仕置之内ニも差別可有御座候哉然處夫有之女密通之科舊惡ニ相立候ニ極り候而ハ御仕置ゆるみニ相成如何ニ御座候間延享二丑年御内意之通ニ相心得可申旨被仰渡可然哉ニ奉存候

巳十一月

按ニ此評議書中ニ御内意ト云ハ本章標書ノ末尾ニ記載アル延享二丑年八月被仰聞候御内意覺書是ナリ

追加

(百二)僉議事有之時同類又ハ加判人之内より早速及白狀もの之事

延享二年極

一惣而僉議事有之時同類又ハ加判人等之内より早速致白狀依之謀計之者共相類ニたゐてハ右早速白狀之ものハ自本罪相當一等輕ク可申付事

百二(延享二丑年八月大岡越前守鳥長門守木下伊賀守伺之内)

一借金出入を奉公人取逃金ニいたし證文致替候節加判いたし候もの

江戸拂●

但右出入吟味之節僞之旨早速申候ニたゐてハ過料

朱書

▲是者去子六月芝田町三丁目佐兵衛三田同廻町七右衛門江日濟錢借證文を以借シ金子段々疊り返濟滯ニ付借金ニ而相懸候而ハ一ヶ年兩度之裁許ニ相成候間七右衛門を奉公人ニ擬右金取逃候分ニ致借金手形を請狀ニ致替右仁兵衛請人ニ成候樣申聞候得者佐兵衛任申旨奉公人引取證文迄認印形いたし不届ニ候得共僞り證文自分取擬候ニ而ハ無之候得共不届之仕方ニ付江戸拂と相伺候處佐兵衛と對決之節早速僞之由申候より佐兵衛不届も相知候間此以後も僞り之證文等巧候節同類より申出候

ため中務大輔嚴依御差圖過料申付候例

掛紙

是者去子六月御仕置之例を以相認申候

▲

御附紙

朱書

借金出入ニハ限間敷候間借金銀取捌之所を除左之通書改何れ成共相應之所江書載可申事

極

一惣而詮議事有之時同類又ハ加判人等之内より早速致白狀依之謀計之もの共相顯にたゐてハ右早速白狀之者ハ自本罪相當一等輕ク可申付事

百二㊀

子四月廿一日入牢

芝田町六丁目
甚兵衛店
佐兵衛

此佐兵衛儀七右衛門ニ日濟シ錢倍證文を以借シ付元利段々疊り金高三拾貳兩ニ相成返濟滯度々催促いたし候得共不相濟候ニ付借シ金にて相願候而ハ一ヶ年ニ兩度之裁許ニ罷成候故七右衛門を奉公人ニ致取逃金之證文ニ仕相願可申と心附證文致かへ可申旨七右衛門ニ申聞仁兵衛ニ請人判爲致拵證文取置右之證文を以出訴仕候段巧成儀奉行所を掠候致方旁以不屆至極ニ御座候間御定書之通死罪ニ可申付候哉

三田同朋町
六右衛門店
七右衛門

同　斷

此七右衛門儀佐兵衛方より倍證文を以借り請候錢元利段々疊り三拾貳兩之金高ニ相成返濟滯候ニ付奉公人取逃金之證文に致替可申旨佐兵衛申聞候ニ付借り金滯ニ無相違候故望之通奉公人取逃金之證文得心いたし印形も仕候儀不屆ニ候得共最初より僞之證文にて金子爲可借ル之證文ニハ無之返濟滯度々催促ニ逢無是非印形いたし候儀ニ御座候間倍金幷白紙手形ニ而金子借り候御仕置之御定書ニ准し過料五貫文可申付候哉

但此格之御仕置御定書ニ無御座候

芝田町三町目
武右衛門店
佐兵衛

此仁兵衛儀佐兵衛申旨ニ任せ奉公人之請人判幷取逃奉公人引取之拵證文に印形仕候段不屆ニ御座候乍
然最初より僞之證文取拵候ニ而ハ無御座候七右衛門借リ請候金子催促ニ逢難儀仕候故右之通之いたし
方ニハ候得共及露顯候而ハ七右衛門不屆ニ可成儀を承り屆候段不埒之致方ニ御座候間江戸拂可申付候
哉

但此御仕置御定書ニ無御座候

芝田町三丁目
武右衛門店
預ケ　勘兵衛

此勘兵衛儀日延證文ニ印形仕候得ハ佐兵衛濟口證文之由申聞候ニ付印形仕候畢竟被扱候而事濟候樣い
たし度所存ニ而德分も無之儀候處濟口證文と申ニ付無筆故其通りと相心得印形仕候儀ニ御座候間御構
御座有間敷候哉

島長門守江

島長門守懸り

芝田町六丁目
甚兵衛店
死罪　佐兵衛

右仁兵衛儀伺之通江戸拂相當ニ見え候得共此もの佐兵衛と對決之節七右衛門取逃ハ僞事之由申候
より佐兵衛不屆相知申事候此以後も僞之證文等工候もの有之節同類より申出候爲ニも候間江戸拂
に不及過料可申付候

過料五貫文

三田同朋町
六右衛門店
七右衛門

芝田町三町目
武右衛門店
仁兵衛

右之通御仕置可被申付候以上

六月

芝田町三丁目
武右衛門店
搆無之　勘兵衛

刑律條例之部

下編 裏紀三章 節目百三條

第三章

司刑書進則

(百三) 御仕置仕形之事

從前々之例

一鋸挽

享保六年極

一日引廻而之肩ニ刀目を入竹鋸ニ血を付側ニ立置二日晒挽可申と申もの有之時ハ爲挽候事 内非人番

從前々之例

但田畑家屋敷家財共闕所

従前々之例

一磔

淺草品川にゐて磔に申付在方ハ惡事いたし候所江差遣候儀も有之尤科書之捨札建之三日之内非人番ニ附置

但引廻又ハ科により不及引廻闕所右同斷

同

一獄門

淺草品川におゐて獄門に掛ル在方ハ惡事いたし候所江差遣候儀も有之引廻捨札番人右同斷

但於牢内首を刎闕所右同斷

同

一火罪

引廻之上淺草品川にゐて火罪申付在方ハ火を附候所江差遣候儀も有之捨札番札右同斷

但物取にて無之分ハ不及捨札闕所右同斷

従前々之例

一斬罪

淺草品川於兩所之内町奉行組同心斬之檢使御徒目付町與力

同

一死罪

首を刎死骸取捨

但闕所右同斷

同

一下手人

首を刎死骸取捨

但闕所右同斷

同

一晒

元文五年極

但新吉原之もの所之儀ニ付晒ニ可成惡事いたし候ハヽ新吉原大門口にて晒

日本橋にゐて三日晒

従前々之例

一遠島

江戸より流罪之ものは大島八丈島三宅島新島神津島御藏島利島右七島之内江遣京大坂西國中國より流罪之分ハ薩摩五島之島々隱岐國壹岐國天草郡江遣

從前々之例

一磔

淺草品川にゐて磔に申付在方ハ惡事いたし候所江差遣候儀も有之尤科書之捨札建之三日之内非人番ニ附置

但引廻又ハ科により不及引廻闕所右同斷

同

一獄門

淺草品川におゐて獄門に掛ル在方ハ惡事いたし候所江差遣候儀も有之引廻捨札番人右同斷

但於牢内首を刎闕所右同斷

同

一火罪

引廻之上淺草品川にゐて火罪申付在方ハ火を附候所江差遣候儀も有之捨札番札右同斷

但物取にて無之分ハ不及捨札闕所右同斷

從前々之例

一斬罪

淺草品川於兩所之内町奉行組同心斬之檢使御徒目付町與力

但闕所右同斷

同

一死罪

首を刎死骸取捨検者ニ申付

但闕所右同斷

同

一下手人

首を刎死骸取捨

但検者にハ不申付

同

一晒

元文五年極

但新吉原之もの所之儀ニ付晒ニ可成惡事いたし候ハヽ新吉原大門口にて晒

日本橋にゐて三日晒

從前々之例

一遠島

江戸より流罪之ものは大島八丈島三宅島新島神津島御藏島利島右七島之内江遣京大坂西國中國より流罪之分ハ薩摩五島之島々隱岐國壹岐國天草郡江遣

但田畑家屋敷家財共ニ闕所

同

一重追放　御搆場所

寛保二年極

武藏　相模　上野　下野　安房　上總　下總　常陸　山城　攝津　和泉　大和　肥前　東海道筋

木曾路筋　甲斐　駿河

從前々之例

但闕所右同斷

從前々之例

一中追放　御搆場所

寛保二年極

武藏　山城　攝津　和泉　大和　肥前　東海道筋　木曾路筋　下野　日光道中　甲斐　駿河

從前々之例

但田畑家屋敷闕所家財無搆

從前々之例

一輕追放　御搆場所

寛保二年極

江戸拾里四方　京　大坂　東海道筋　日光　日光道中

從前々之例

但闕所右同斷

追加

寛保二年極

右重中輕共ニ何方ニ而も住居之國を書加相搆住居之國を離他國にれて惡事仕出候ものハ住居之國惡事仕出候國共ニ貳ヶ國を書加御搆場所書付相渡候事

從前々之例

右追放者御郭外ニ而放遣侍ハ於其場所大小渡遣候事

追加

寛保二年極

一於京都重追放申付候ものハ右御搆場所之外ニ河内近江丹波三ヶ國を加へ相搆中輕追放ハ別儀無之事

從前々之例

一江戸拾里四方追放

延享元年極

但在方之ものハ居村共ニ搆闕所無之然共利欲ニ拘リ候類ハ田畑家屋敷闕所尤年貢未進等有之候ハヽ

日本橋より四方江五里ッヽ

家財共闕所

品川板橋千住
本所深川　より内御構
四ッ谷大木戸

從前々之例
寛延元年極

一江戸拂

延享元年極

但右同斷

從前々之例

一所拂

延享元年極

但闕所無之然共利欲ニ拘リ候類者田畑家屋敷闕所尤年貢未進等有之候ハヽ家財共闕所

在方ハ居村
江戸町人ハ居町　拂

追加
延享二年極

町人百姓　重 中 輕　追放

一江戸拾里四方井
住居之國惡事仕

重追放
闕所

出候國共ニ構之

但田畑家屋敷無之ものハ家財取上田畑家屋敷家財も無之もの輕重之不及沙汰事

追加
延享二年極

一自本罪一等重キ御仕置ハ可爲遠島以下事

重追放ハ　　人數又ハ殘候上　重追放
中追放ハ　　重追放
輕追放ハ　　中追放
所拂ハ　　江戸拂

但都而右之輕重ニ可心得事

田畑家屋敷家財取上
中追放
闕所
田畑家屋敷取上
輕追放
闕所
田畑取上

追加
延享二年極
一自本罪一等輕キ御仕置之事
死罪ハ
遠島ハ
但右同斷

追加
延享元年極
一田畑持高之内半分或三分二三分一取上候者ハ
持高三分二可取上分
過料壹反歩ニ付
五貫文宛
同半分可取上分
同壹反歩ニ付
三貫文宛
同三分一可取上分
同壹反歩ニ付
貳貫文宛

遠島
重追放
中追放

奉行所門前より拂遣

同
一奴
但望候もの無之内ハ牢内差置
望之もの有之候得ハ遣ス

同
一追院
住居之寺江不相歸申渡候所より直ニ拂遣ス

同
一退院
住居之寺を可退旨申渡

同
一一宗搆
其宗旨を搆

從前々之例
一一派搆
其一派を搆同宗にても外之派ニ成候得ハ無搆

同
一改易
大小渡宿江相歸夫より立退申候

但家屋敷取上家財無搆

同
一閉門
門を閉窓塞釘メに不及

從前々之例
一門前拂